石堂池遺跡

中津市文化財調査報告書第28集

2003

中津市教育委員会

石堂池から南側を望む

例　言

一．本書は2000年度（平成12年度）に実施した、県営地域用水環境整備事業、（下池永地区）に伴う発掘調査報告書である。

一．調査は大分県中津下毛地方振興局の委託を受け、中津市教育委員会が実施した。

一．調査は現場で2000年度実施し、整理作業を2001年度に実施した。

一．現場の遺構図、写真撮影は高崎章子（中津市教育委員会）、花崎徹（中津市教育委員会）が行った。

一．遺物整理作業は泉幸枝、清永洋美、塩谷絹子、松村たか子、松永理恵、岩本敏美、佐藤智子、穴井美保子が行った。

一．遺物の実測、製図、出土遺物観察表は九州文化財リサーチに委託し、一部、花崎、金丸孝子（中津市歴史民俗資料館）が行った。

一．遺構の製図は金丸が行い、一部花崎が補足した。

一．図面整理は高崎が行い、花崎が補足した。

一．空中写真は九州航空株式会社に委託した。

一．遺物の写真撮影は花崎が行い、長岡早苗、掛布玲子、岡田由美恵の協力を得た。

一．本書の執筆編集は花崎が行った。

一．報告書作成にあたり、中野溫子（中津市歴史民俗資料館）、金丸の協力を得た。

調査団の構成

調査体制は以下の通りである。

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	前田　佳毅	（中津市教育委員会教育長	平成13年1月31日まで）
	於久　孝正	（　同	教育長職務代行者管理課長 平成13年2月1日から同3月31日まで）
	武吉　勝也	（　同	教育長　平成13年4月1日から）
調査事務	尾畑　豊彦	（　同	市民文化センター館長）
	田中布由彦	（　同	係長）
	富田　修司	（　同	主査）
調査担当	高崎　章子	（　同	主査）
	花崎　徹	（　同	主任）

現場作業は下記の方々の協力による。（順不同、敬称略）

今永キク子、植山ヨシカ、植山トミ子、植山京子、辛島雅美、黒川みゆき、黒川洋美、田原文子、徳永賀子、松本勲、山縣信夫、若木和美、中村香代子、田中トミ子、花田郁夫、石塔美代子、新田秀勝

目　次

巻頭図版１
例言

第一章　地理と歴史的環境……1

第二章　調査に至る経緯……3

第三章　調査の記録……4
　１．調査の概要……4
　２．古代の遺構……4
　３．中世の遺構……8
　４．近世の遺構……16

第四章　小　結……46

図版１～13

挿　図　目　次

1図　中津地方主要遺跡分布図…… 1
2図　石堂池遺跡周辺図（1／2,500）…… 3
3図　石堂池遺跡古代遺構図（1／500）…… 4
4図　石堂池遺跡遺構図（1／400）…… 5、6
5図　ＳＫ－１、ＳＤ－２、ＳＨ－１図（1／40）…… 7
6図　石堂池遺跡中世遺構図（1／500）…… 8
7図　ＳＫ－２、５図（1／40）…… 9
8図　ＳＤ－１、３、土塁２図（1／60）…… 10
9図　ＳＤ－１図（1／60）…… 11、12
10図　ＳＥ－５図（1／40）…… 13
11図　ＳＢ－１図（1／40）…… 14
12図　石堂池遺跡近世遺構図（1／500）…… 16
13図　ＳＫ－３、４、５、６、７、８、９図（1／40）…… 17
14図　ＳＫ－11、12、13、14、15、16図（1／40）…… 19
15図　ＳＥ－２、３図（1／40）…… 21
16図　ＳＸ－１、２図（1／40）…… 22
17図　集石遺構１図（1／40）…… 24
18図　集石遺構２図（1／40）…… 24
19図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 26
20図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 27
21図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 28
22図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 29
23図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 30
24図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 31
25図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 32
26図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 33
27図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 34
28図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 35
29図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 36
30図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 37
31図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 38
32図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 39
33図　石堂池遺跡出土遺物実測図…… 40
34図　石堂池周辺地目図…… 47、48

表　目　次

石堂池遺跡、陶磁器、瓦質土器観察表……41、42、43
石堂池遺跡、土器観察表……44
石堂池遺跡、土製品、土人形、石器、墓石、銅銭観察表……45

図　版　目　次

図版１　１区発掘前風景 …… 53
発掘風景
ＳＨ－１
図版２　２区東側から …… 54
２区から３区を望む
ＳＤ－１
図版３　１区北側より …… 55
ＳＤ－３ 、ＳＤ－５、ＳＤ－６ 、ＳＤ－１
ＳＥ－５
図版４　土墨２ …… 56
土墨２、ＳＤ－３
土墨２、ＳＤ－１
図版５　ＳＫ－２ …… 57
ＳＫ－４
ＳＫ－６
図版６　ＳＫ－７ …… 58
ＳＫ－８
ＳＫ－９
図版７　ＳＫ－12 …… 59
ＳＫ－15、14、13、16
ＳＥ－３
図版８　ＳＥ－３ …… 60
集石遺構１
集石遺構２
図版９～13　出土遺物 …… 61、62、63、64、65

第一章　地理と歴史的環境

1図　中津地方主要遺跡分布図

1　高畑遺跡
2　高瀬遺跡
3　上万田遺跡
4　相原廃寺
5　鴻の巣城跡
6　石堂池遺跡
7　沖代地区条里跡
8　八ツ並城跡
9　長者屋敷遺跡
10　勘助野地遺跡
11　上ノ原横穴墓群
12　上ノ原平原遺跡
13　佐知遺跡
14　黒水遺跡
15　福島遺跡
16　棒垣遺跡
17　入垣貝塚
18　犬丸川流域遺跡群
19　森山遺跡
20　才木遺跡
21　野依伊藤田窯跡群
22　諸田遺跡

中津市は大分県の北部に位置し、東は宇佐市、西は福岡県築上郡と、南は下毛郡に接し、北は周防灘に面する。人口約67,000人を数え、市域面積は55.67km²の中核都市である。地形は起伏の少ない平坦なものである。西側は山国川の活動による沖積平野が広がる。山国川は英彦山に源を発し津民川、山移川などの支流を集め周防灘に注いでいる。東側は通称、下毛原台地（洪積台地）が広がり標高約20m程の台地は宇佐市まで延びる。ここで中津地方の主要遺跡を概観してみることにする。

旧石器時代の遺跡は洪積台地で散見されつつある。後期旧石器時代に属する。勘助野地遺跡、才木遺跡ではソフトローム層から細石刃や剥片石器などが出土している。

縄文時代の遺跡も洪積台地上に分布している。また山国川の自然堤防上の微高地にも散見される。代表的な遺跡は黒水遺跡、諸田遺跡、棒垣遺跡、入垣貝塚、高畑遺跡などが挙げられる。諸田遺跡は前期の土器片を含むピット群、出土遺物はないが陥穴などが検出されている。後期の遺跡である棒垣遺跡では竪穴住居、土壙墓などが検出されている。また入垣貝塚と隣接し、セットとして考えられる。

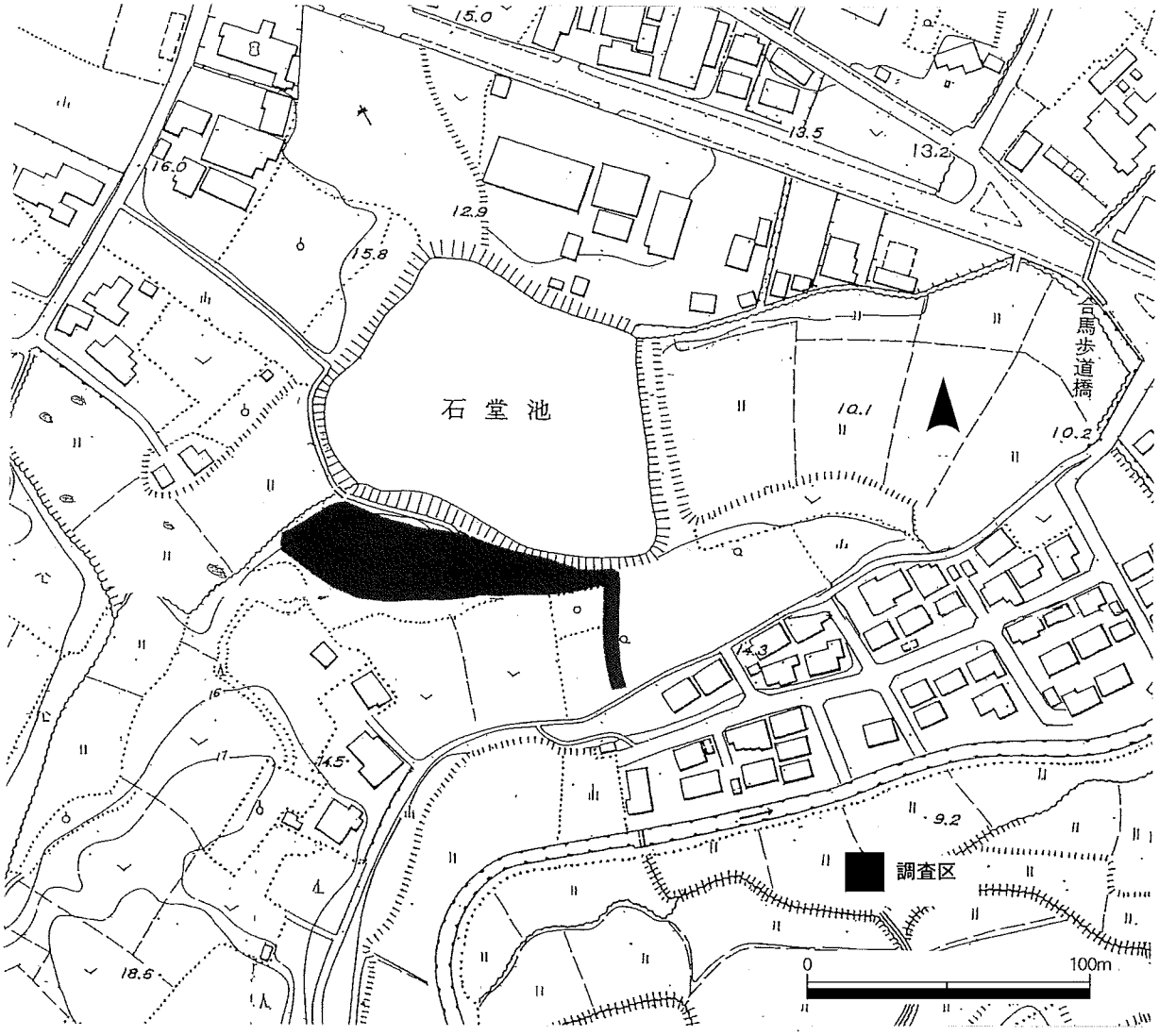
弥生時代の遺跡は前期から中期にかけて洪積台地上に集落を形成し、後期は平野部に散見される。上ノ原平原遺跡、福島遺跡、森山遺跡、上万田遺跡などが代表される。福島遺跡では、中期の溝が直線で160m程確認されており、この台地上では大規模な集落の広がりが予想される。

古墳時代の遺跡は自然堤防上や微高地に集落、台地上に墓地が分布している。佐知遺跡、高瀬遺跡、上万田遺跡、上ノ原横穴墓群、野依伊藤田窯跡群などが代表される。高瀬遺跡、上万田遺跡は本格的な調査は行われていないが、土器片が採集されており集落を予想させる。また平野部では水田遺構も確認されている。野依伊藤田窯跡群では、須恵器、須恵質瓦の生産が開始される。

律令時代の遺跡は相原廃寺、沖代地区条里跡、長者屋敷遺跡などが代表される。百済系単弁瓦を出土する相原廃寺は塔跡と推定される礎石が残存する。平野部には沖代地区条里跡の地割が制定され、台地上に下毛郡衙と推定される長者屋敷遺跡（正倉）が立地する。沖代地区条里跡は近年失われつつ現在もその景観を残す。

中世の遺跡は、石堂池遺跡、諸田遺跡、八ツ並城跡、犬丸川流域遺跡群などが挙げられる。諸田遺跡は平成13年度より調査が行われ、濠に囲まれた居館が検出されている。犬丸川流域遺跡群第7地点でも二重環濠により区画された居館が検出された。また八ツ並城跡でも二重環濠や周辺の土塁が確認されている。中津市内には、23の中世城館と推定される遺跡が点在する。石堂池遺跡周辺でも鴻ノ巣城跡が推定される。正平10年（1355）由布、国府、豊前、城井、博多を攻略した懐良親王は正平13年、宇佐神宮に宝刀（重文）を奉納、正平20年、後醍醐天皇勅願書大楽寺の般若経の奥書をされた時に、鴻ノ巣城に駐駕されたという伝説が残る。中津市内には中世城館跡と推定される（小字などから）現場付近では、土塁や濠の痕跡が現在でも確認される地点が残る。16世紀、下野国の宇都宮氏が豊前の地頭として入り、秀吉の全国統一まで勢力をふるったとされる。

第二章　調査に至る経緯



2図　石堂池遺跡周辺図（S ＝ 1/2,500）

1. 調査に至る経緯

大分県は中津市内において平成７年度より県営水環境整備事業（現、地域用水環境整備型、以下事業という）を行っている。平成 11 年度、大分県教育庁文化課が事業前に行った分布調査で、石堂池周辺に近世墓が確認された。これを受け中津市教育委員会で試掘調査が実施されることとなった。事業は石堂池の南側にあたる部分に公園を作る計画であった。現地は雑木や竹が生い茂り、中に踏み込めない状況であった。試掘調査を平成12年10月24日より実施した。調査区は事業において、地下に影響がある部分に限定して行った。トレンチを設定し、重機により掘削を行った。表土より 40cm ほどで地山に達し、遺構が検出されたことから引き続き本調査へと移行した。本調査は工事内容から３地点に分けて実施した。調査区の西側を１区、中央を２区、東側を３区とした。

第三章　調査の記録

1. 調査概要

１区の調査区半分を重機により開け終えた結果、中世の溝が確認された。また雑木によって確認が困難であった土塁の姿が明らかになってきた。遺構検出を進めると土塁の両側に溝が掘り込まれ土塁の内側には中世～近世に至る遺構が確認された。２区は竪穴住居、井戸、土壙、柱穴などが検出された。調査区の西側の畑地は地続きになり遺跡は広がり古代～近世に至る集落跡になるものと推測される。また２区の東側と北側にも土塁が確認された。３区は小高い丘陵になる。丘陵の南端で表面に墓石の破片がまとまっていた。この直下で土壙を検出した。３区より東側は事業の対象でないが、近年開発された水路を挟み丘陵は続く。ここは緑濃い森で近世墓が密集する。

2. 古代の遺構

（1）土壙

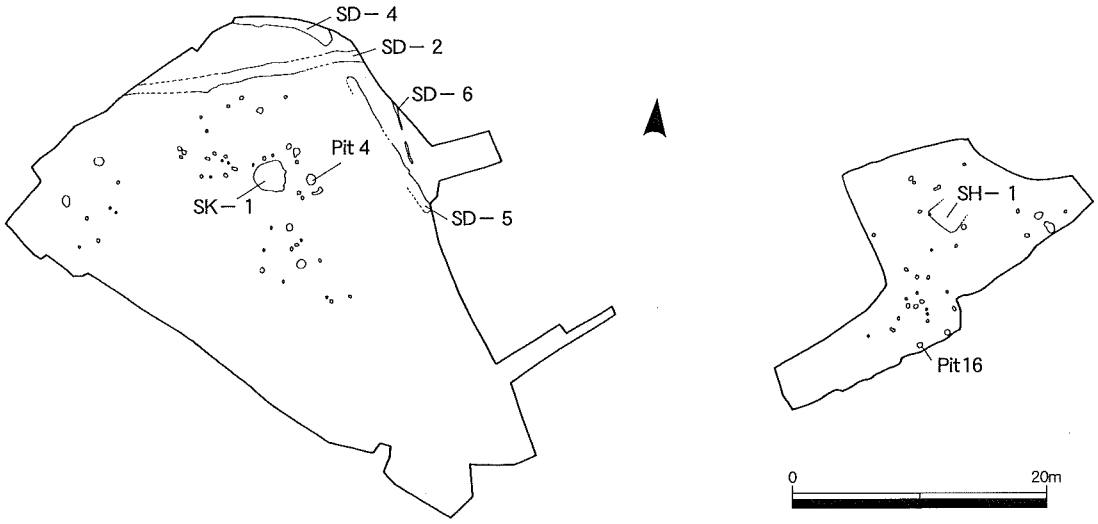
土壙はＳＫ－１が検出された。１区の中央部に位置する。

ＳＫ－１　円形の土壙である。最大径は約 106cm を測る。深さ約８ cm と浅い。外側より掘り込まれ、一度隆起し、中央部はピット状に掘り込まれる。性格は不明。黒褐色のぱさぱさした土層である。遺物は近世の磁器 19 図、１～５が検出された。流れ込みの土器であると思われる。

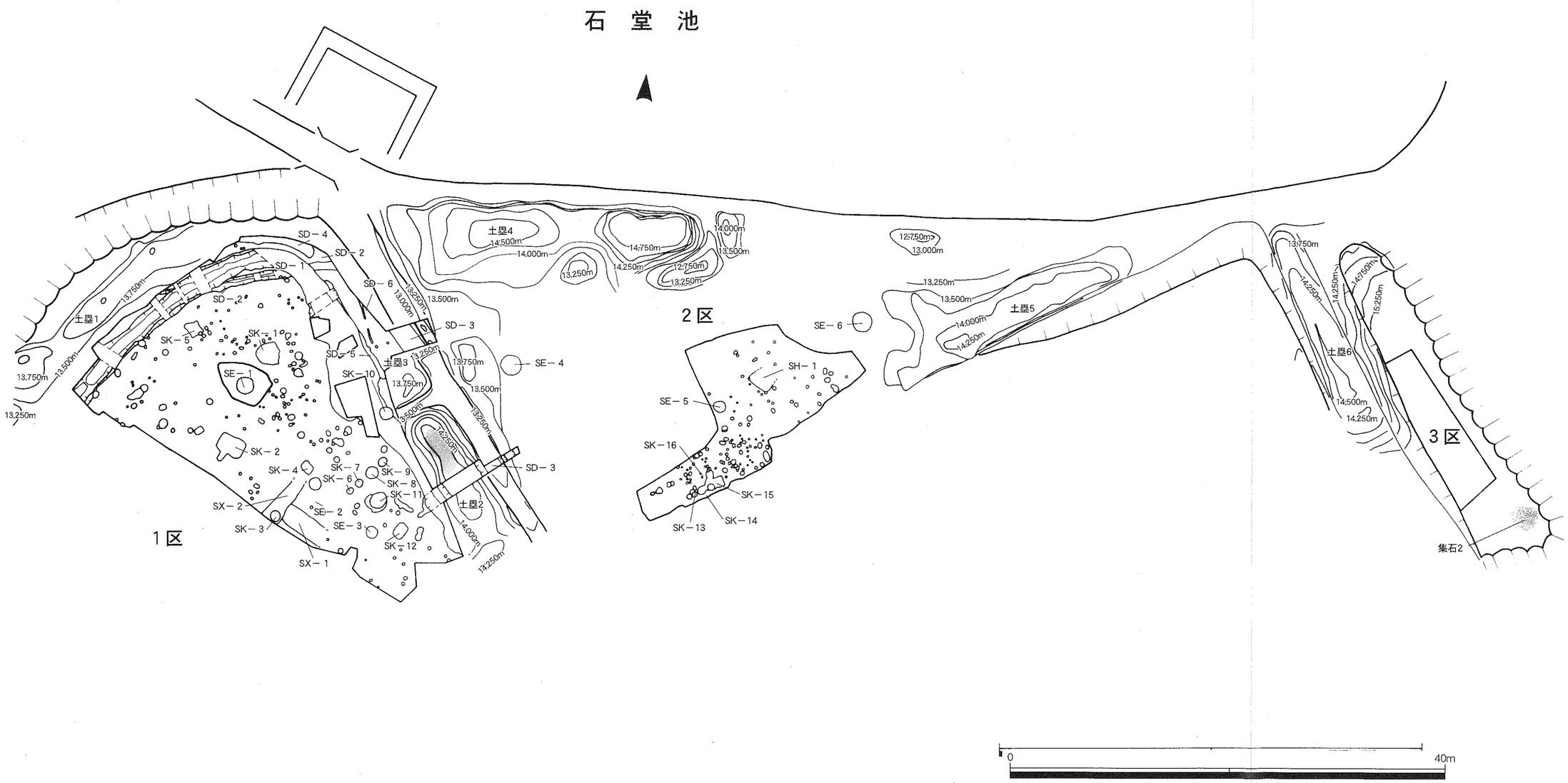
（2）溝状遺構

溝はＳＤ－２、４、５、６が検出された。このうちＳＤ－２は掘り下げ調査を行ったが、他は未発掘である。埋土よりＳＤ－４、５、６は古代のものと判断した。またＳＤ－２とＳＤ－６は直角に交わり、ＳＤ－４、ＳＤ－５は同一のものになると思われる。

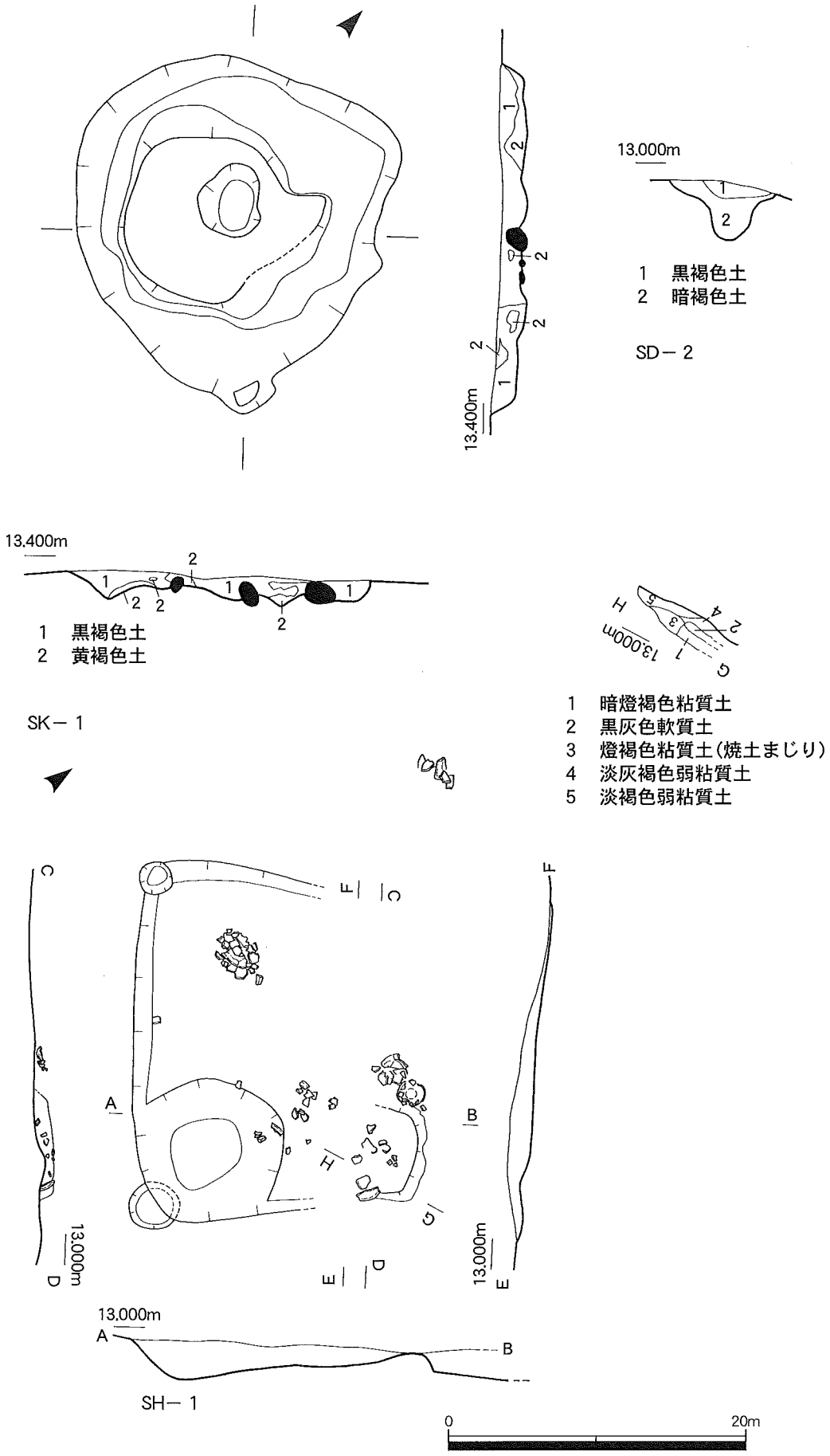
ＳＤ－２　ＳＤ－２は１区の西側に位置する。一部ＳＤ－１に切られ再び東に延びる。幅約 72cm、深さ約 40cm である。１区調査区の南側に人家があり、ここを通り抜ける里道部分は調査できなかっ



3図　石堂池遺跡古代遺構図（S＝1/500）



4図　石堂池遺跡遺構図(S＝1/400)



5図　SK－1、SD－2、SH－1図（S＝1/40）

たが、ＳＤ－６とは直行すると推定される。出土遺物は須恵器の甕の口縁部19図、６である。口縁部は上外方にのび、口縁端部はわずかに内側に屈曲する。外面に描波状文を施す。

（３）竪穴住居

竪穴住居はＳＨ－１である。２区の中央部で検出された。

ＳＨ－１　ＳＨ－１は西側半分を後世の削平により消滅していた。東西幅は最大で約240cm、深さ約10cmで隅丸方形になると思われる。主柱穴は住居の北側コーナー部にピットを１基検出したのみである。また西側コーナー部に深さ25cmほどの掘り込みが検出された。西側中央部に暗褐色の焼土が混じった塊が検出され竈になる。周辺には土師器、須恵器が粉砕された状態で出土した。出土遺物は19図、７～12であるである。７は須恵器の坏になる。口径11.9cm、器高4.5cmを測る。口縁部は上外方にのび、端部はわずかに外反する。８世紀前半のものになる。９は土師器の皿になる。復元口径15.4cm、器高1.9cmを測る。口縁部は上外方にのび、端部はわずかに外反する。11は土師器の甕である。復元口径18.9cm、器高10.2cmを測る。外面に指削り、ハケ目を施す。内面は削りを施す。12は砥石になる。縦長4.3cm、横長3.45cm、重さ53.9gを測る。

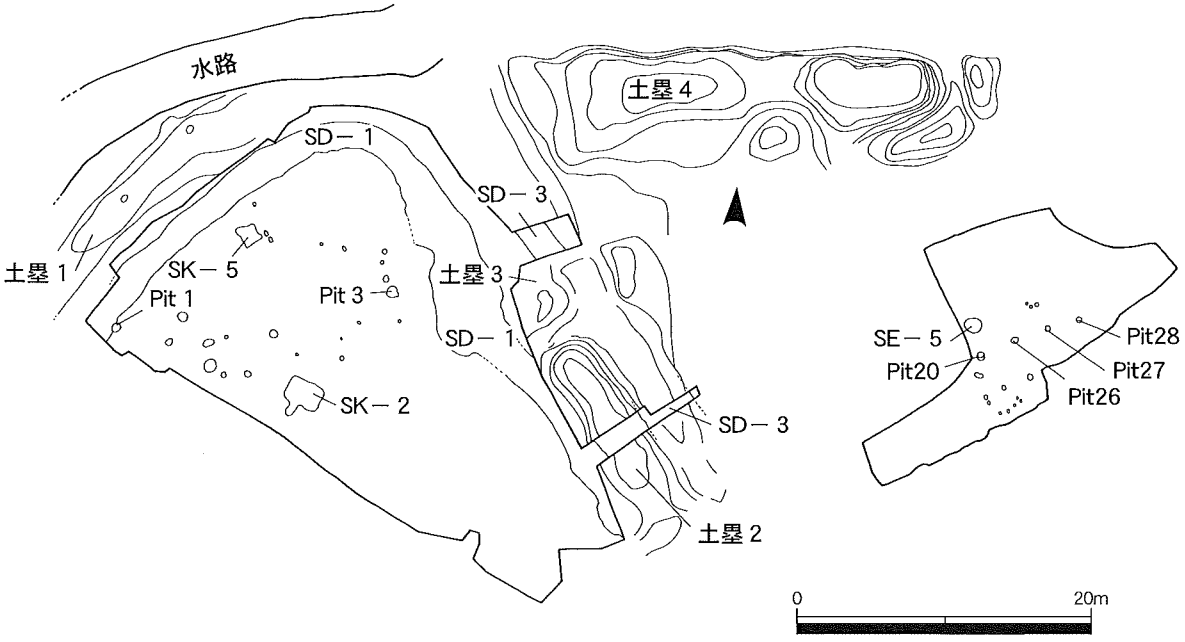
（４）Pit状遺構

Pit状の遺構は１区の北西側と２区の中央部に検出された。埋土が黒褐色のものを古代のものとした。１区は直径25cmほどのPitが検出されたが建物の形をなぞることができなかった。２区も同様であるが直線に並ぶものが確認できた。

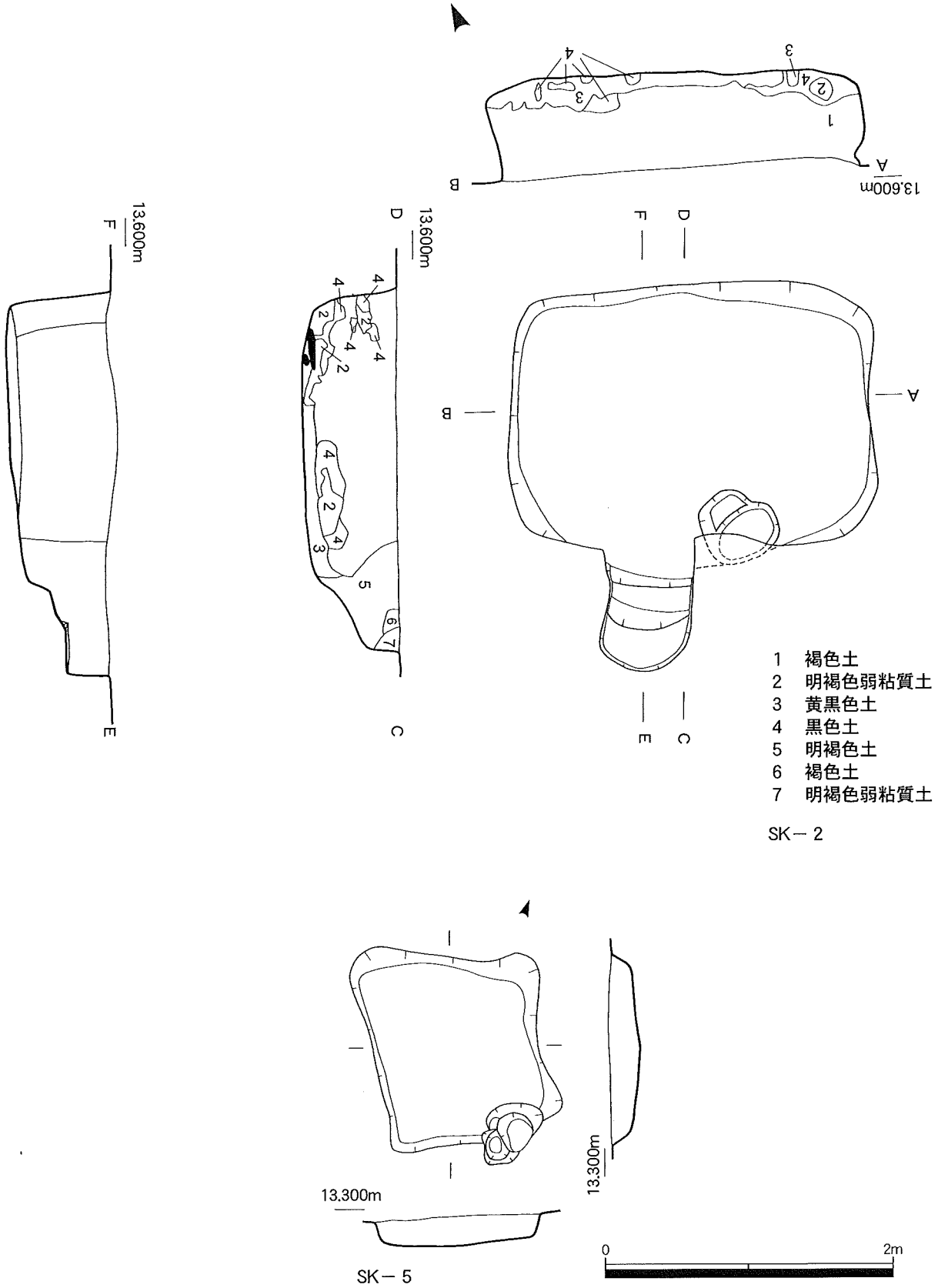
中世の遺構

（１）土壙

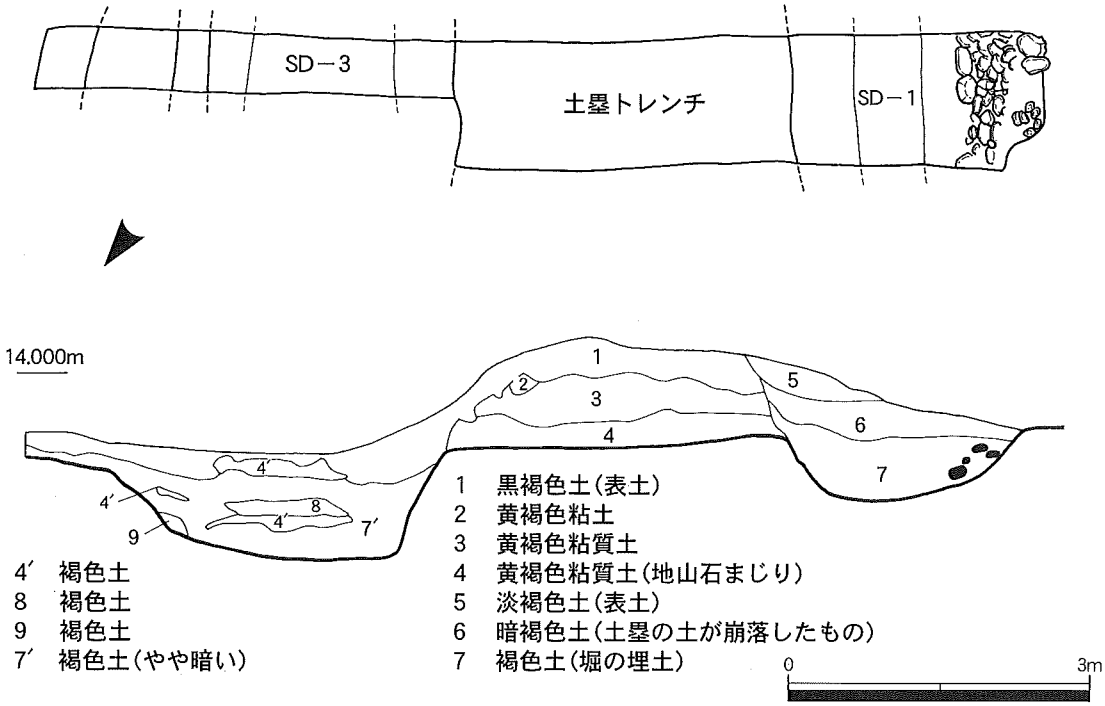
土壙は１区のＳＫ－２、ＳＫ－５が検出された。ＳＫ－２は１区の南側、ＳＫ－５は西側に位置



6図　石堂池遺跡中世遺構図（S＝1/500）



7図　SK－2、5図（S＝1/40）



8図　SD－1、3土塁2図（S＝1/60）

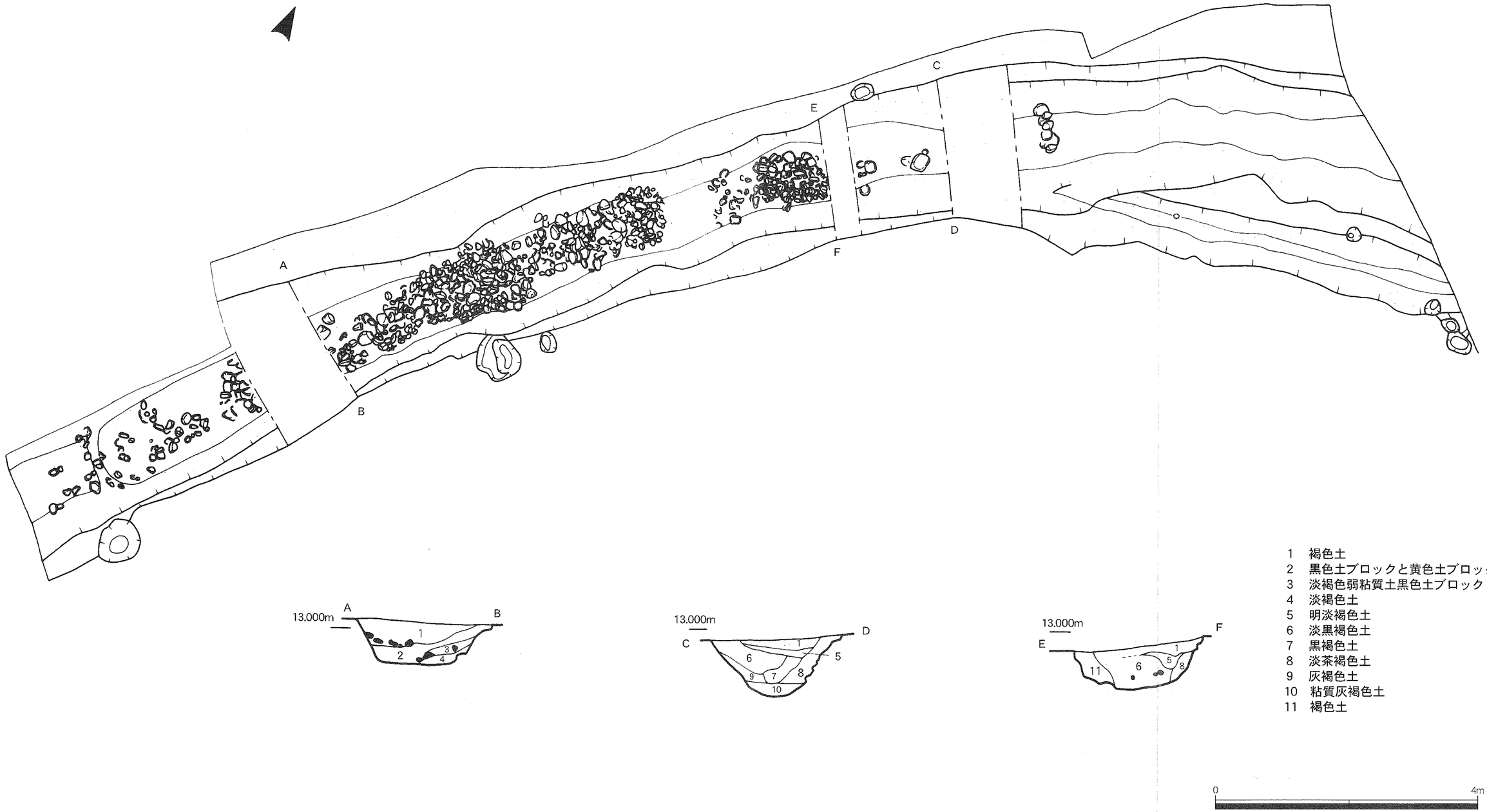
する。

ＳＫ－２　ＳＫ－２は約248cm×180cmの東西に長い方形で深さは約64cmを測る。南辺に幅約60cmの階段を有する。床面は平坦で方形である。南側の壁面はややオーバーハングぎみに掘られる。また南辺床面に幅約90cm、深さ約20cmのピット掘込まれる。ＳＫ－２は地下式土壙になる。埋土上層は同一のものである。出土遺物は20図の13～24である。13は青磁の碗の口縁部である。14は土師質土器の皿になる。復元口径11.7cmを測る。15～17は土師質土器の口縁部になる。17は外面に一条の突帯をめぐらし、雷文のスタンプを施す。18、19は土師質土器の鉢か。19は復元口径22.3cmを測る。内面にミガキを施す。20、21は土師質土器の小皿である。いずれも底部に糸切りを施す。20は復元底径7.2cmを測る。21は復元口径8.3cmを測る。22は磁器の染付碗になる。復元口径10.8cmを測る。肥前系で18C後半～19C中頃。23は銅銭の寛永通宝である。1668年以降、鋳造されたものである。

ＳＫ－５　ＳＫ－５は方形で幅約132cm×96cmである。深さ約28cm、暗褐色の埋土である。床面は平坦である。性格は不明。出土遺物は20図の24～29である。24は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。25は土師質土器の鉢か。復元口径25.3cmを測る。26は瓦質土器の火鉢である。復元口径40cmを測る。27は磁器の染付碗である。外面は花弁文様。口径9.5cm、器高5.8cmを測る。29は瓦質土器の底部か。

（２）溝状遺構、土塁

溝状遺構はＳＤ－１、ＳＤ－３が検出された。ＳＤ－１は１区の西側から東にかけてＳＤ－３は１区の東側に位置する。ＳＤ－１とＳＤ－３は南北方向に平行に延びる。調査区の西側は開発によ



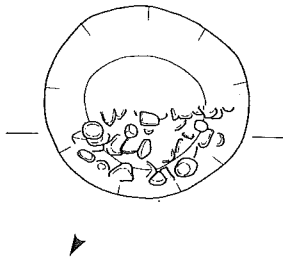
1　褐色土
2　黒色土ブロックと黄色土ブロック
3　淡褐色弱粘質土黒色土ブロック
4　淡褐色土
5　明淡褐色土
6　淡黒褐色土
7　黒褐色土
8　淡茶褐色土
9　灰褐色土
10　粘質灰褐色土
11　褐色土

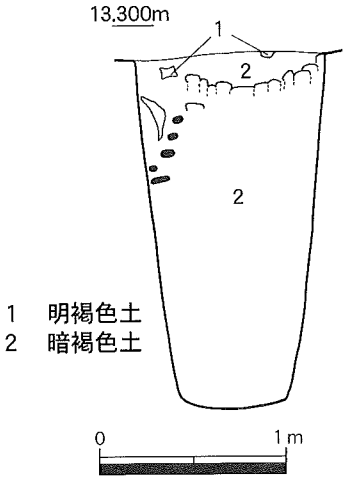
9図　SD－1図(S＝1/60)

る地下への影響はなく完屈していない。特にＳＤ－３は現在調査区南側の人家への里道として使用されていることから一部を発掘したのみである。またＳＤ－１とＳＤ－３の間に土塁２が確認された。土塁は残りがよく、開発において破壊されないよう協議し保存されることとなった。

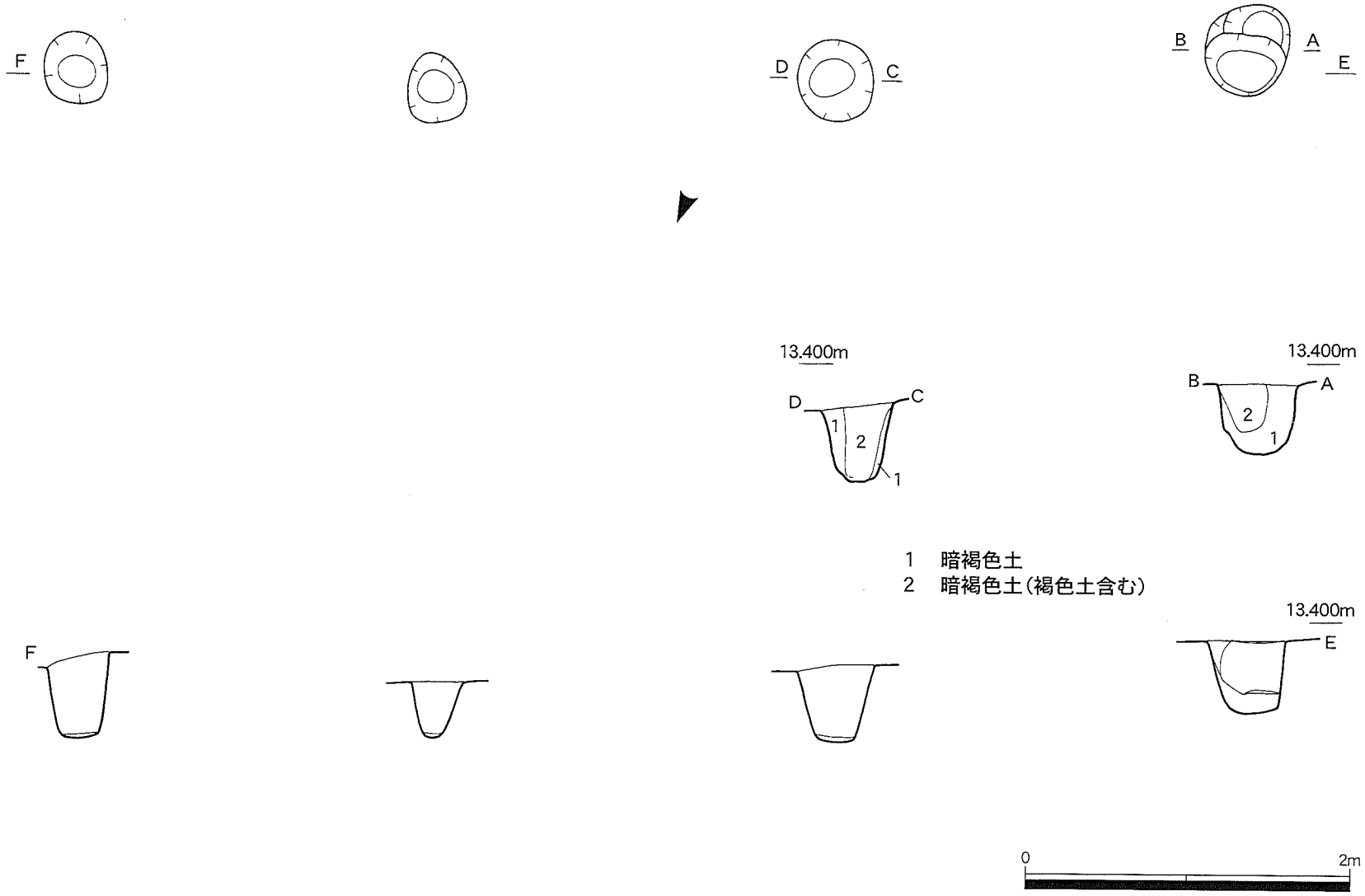
ＳＤ－１　ＳＤ－１は１区の南側から北へ延び１区調査区の北側で東方向へ弧を画き東へ曲がる。幅約 190cm、深さ約 60cm である。西側で古代の溝ＳＤ－２を切る。掘り下げた西側部分では溝の中層から下層にかけ 20 ～ 30cm ほどの礫が大量に検出された。また中世から近世に至る土器片が検出された。出土遺物は 21 図、30 ～ 44 である。30 は土師質土器の坏か。31 は須恵器の鉢の口縁部か。端部は肥厚し方形をなす。32 は土師質土器の口縁部。外面にヘラ削りを施す。33､34 は碗の底部になると思われる。33 は復元底径 5.4cm､34 は復元底径 6 cm を測る。35 は須恵器の甕。36 は須恵器の壺の口縁部になる。復元口径 18.4cm を測る。口縁端部はやや内湾し丸みをもつ。外面に波状文を施す。35、36 は流れ込みのものと思われる。37 は土師質土器の鉢である。復元口径は 26cm を測る。全体に煤が付着する。口縁端部は方形を呈す。16 世紀以降のものと思われる。38 ～ 40 は磁器の碗である。38 は口径 9.5cm、器高 4.25cm を測る。39 は口径 8.9cm、器高 5.15cm を測る。外面は見込み花の染付けを施す。40 は口径 10.4cm、器高 5.8cm を測る。外面は井桁、花の染付けを施す。42、43 は磁器の角皿である。43 は口径 8.2cm、器高 2.45cm 内面に菊花の型打を施す。44 は染付けの急須である。

ＳＤ－３　ＳＤ－３は東側の一部を掘り下げたのみである。掘り下げていないが北方向へ延びることが確認された。１区調査区の西側に現在、農業用水路が流れる。里道の関係で調査できなったがＳＤ－３はこの水路につながるものと推測される。幅約 290cm、深さ約 80cm で断面は逆台形を呈す。出土遺物は 22 図の 45 ～ 76 である。45 ～ 49 は土師質土器の口縁部になる。いずれもＳＤ－３の下層から出土したものである。45 は甕の口縁部か。内面にミガキを施す。46 は焜炉。47、48 は鉢か。２点とも内面にミガキを施す。49 は口縁端部が肥厚し上外方向へ延びる。50 は磁器の鉢か。内面に型打を施す。51 は磁器の鉢である。復元口径 15.6cm を測る。肥前､18C。52 は磁器の筒型碗で復元底径 5.6cm を測る。53 は磁器の瓶類頚部か。54 は磁器の三足付き香炉。肥前、18C か。55 は土師質土器の底部。内面にミガキを施す。58､59 は磁器の皿の底部である。58 は底径 3.7cm、59 は復元底径 6.4cm を測る。61、62 はすり鉢。62 は復元底径 14.4cm を測る。64 は土製品である。器高 4.55cm を測る。65 ～ 72 は磁器の碗になる。65 は復元口径 10.4cm を測る。胴部で屈曲し口縁部は上方へ延びる。





10 図　SE － 5 図（S ＝ 1/40）



11図　SB－1図（S＝1/40）

67は復元口径12.2cm、器高5.15cm復元底径5 cmを測る。71は底径4.8cmを測る。外面に草花の染付けか。72は復元底径4.3cmを測る。73は磁器の皿である。復元底径8.8cmを測る。75は陶器の甕である。肥前唐津系か。18C後半と思われる。

土墨　調査区全体で確認された土墨は6基である。土墨1は1区の西側に位置するＳＤ－１と農業用水路の間で確認された。残りの状態は悪く、調査時にわずかな高まりが観察できた。確認できたのは長さ約15.6m、幅約5.2m、高さ約60cmである。土墨2、3はＳＤ－１、ＳＤ－３の間に位置する。土墨2と土墨3の間に幅約1 mの通路状の道が現存していた。溝が掘られ土墨が築き上げられたときからのものか、後世に土墨が切られたのかは判断できなかった。土墨2の長さは約15.6m、幅約5.2m高さ約1 mである。土墨3は長さ約4 m、幅約4 m、高さ約1.2mである。土墨4は1区と2区の間、北側に位置する。土墨の北側は石堂池になることから土墨の南側に重機でトレンチを掘削したが溝状の遺構は検出できなかった。しかし土墨4の南直下と西直下に3つのくぼ地が確認され、土墨に関連するものと推測される。土墨4の長さは約30m、幅約8 m、高さ約1.2mである。土墨5は2区の東側に位置する。土墨5の南側に農業用水路と思われる浅く幅の狭い溝が確認でき、土墨に関連するものと推測される。土墨5は長さ約24m、幅約8 m、高さ約80cmである。土墨6は3区調査区の西側に位置する。土墨5の南側の溝が土墨6方向へ延び、直角に南へ折れる。土墨6は直角に折れた地点から確認される。長さ約12m、幅約6 m、高さ約1 mである。

井戸

ＳＥ－５　井戸は2区の北西にＳＥ－５を検出した。円形で直径約108cm、深さ約188cmを測る。検出面より1層は暗褐色の土層が約15cm埋まり、これより下層は10～20cmほどの礫が詰め込まれるように検出された。礫は井戸を封じる時に投げ込まれたものと推測される。出土遺物はなく時期の決め手にかけるが、埋土より中世のものと判断した。

掘立柱建物

ＳＢ－１　掘立柱建物は2区の中央部でＳＢ－１を検出した。土層からPit20とPit26で柱痕が確認できた。柱痕間は2.2mである。柱穴の掘り方は4基とも円形で、直径約40cmである。深さはPit20が約42cm、Pit26は約43cm、Pit27が約36cm、Pit28が約46cmである。調査区内で方形の形を描くPitは確認できなかったが、調査区外の南側に柱穴は並ぶものと推測される。出土遺物はPit20より瓦質土器の鉢、23図、76が出土した。口縁部は上外方へのび、端部は方形を呈す。外面に指押さえを施す。

Pit状遺構

Pitは暗褐色の埋土のものを中世のものと判断した。1区の西側と2区の中央部に集中する。特に2区の中央部は前記したＳＢ－１が検出されたことから掘立柱建物の存在が期待されたが、確認できたのはこれのみであった。

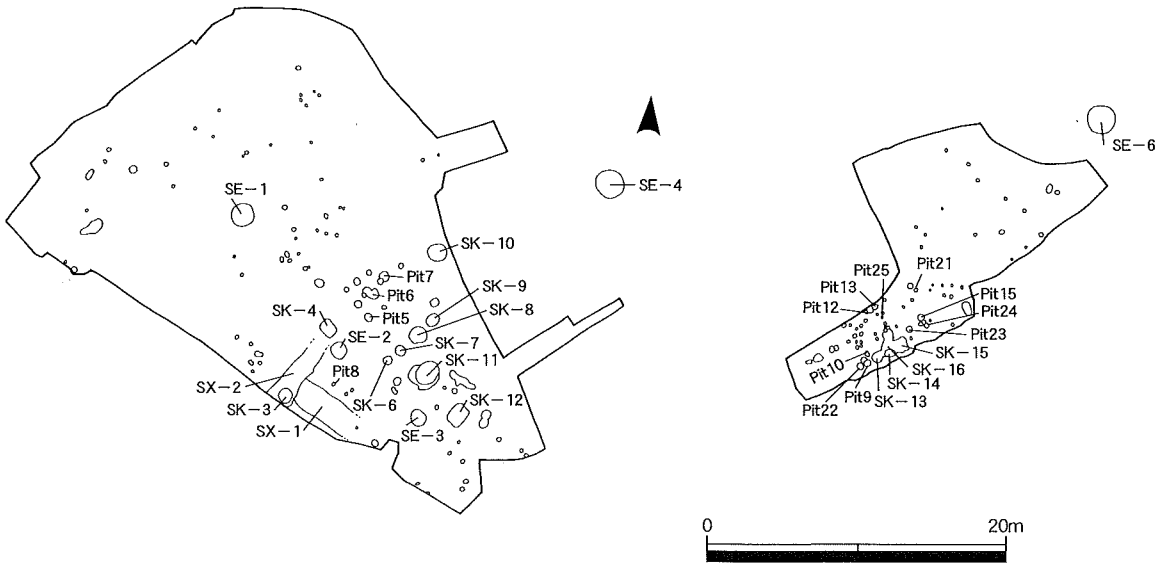
近世の遺構

（1）土壙

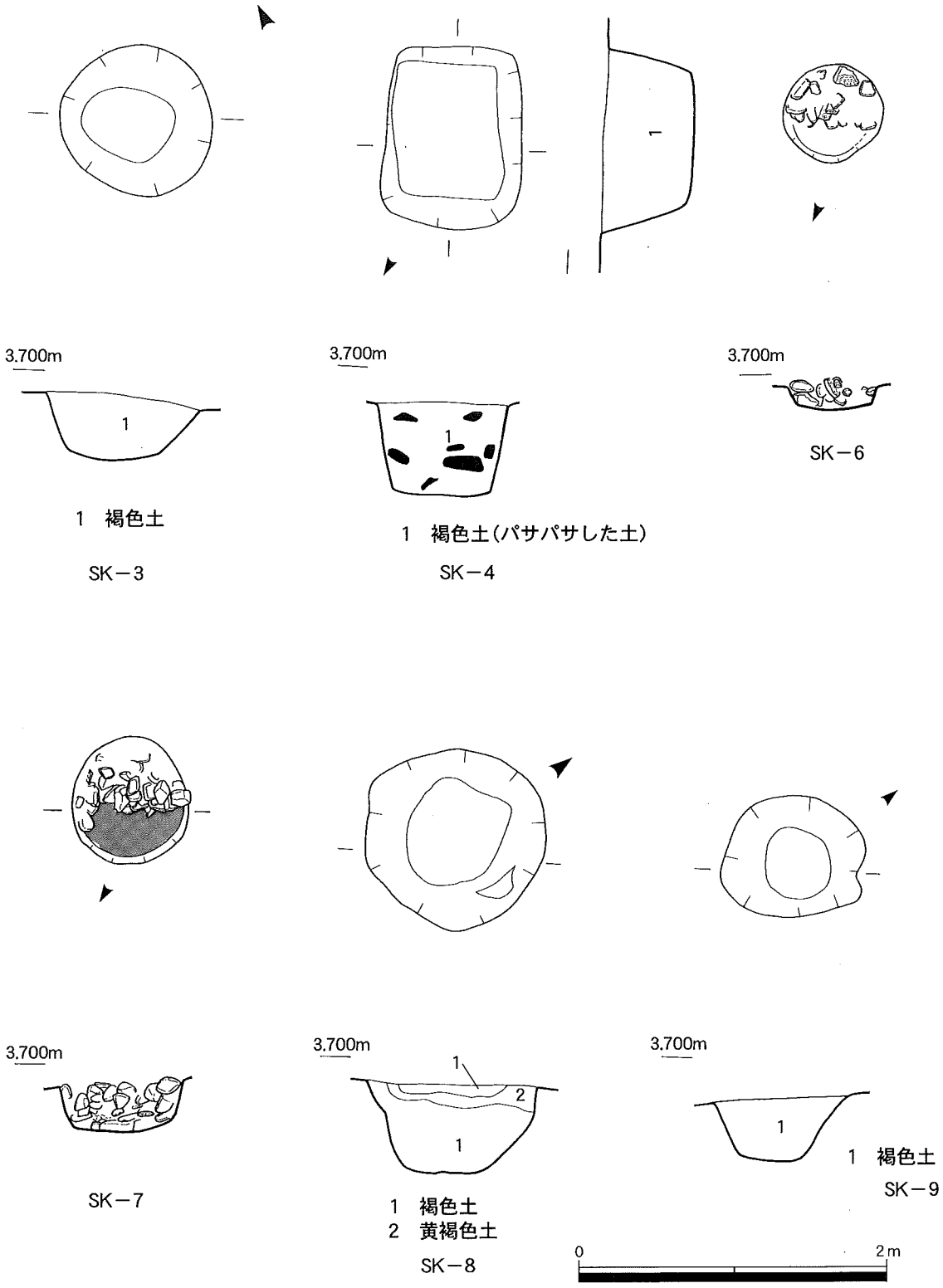
土壙は1区のＳＫ－３、４、６、７、８、９、11、12、２区のＳＫ－13、14、15、16が検出された。また1区の西側でＳＫ－10が検出されたが事業による影響がないことから掘り下げて調査は行っていない。ＳＫ－10の掘り方の回りは漆くいが貼り付けられ円形になる。性格は便所になるものと推測される。

ＳＫ－３　ＳＫ－３は1区の南側で検出された。円形で直径は約96cm、深さ約40cmである。浅く掘り込まれたＳＸ－２の中央部で検出されたが埋土は同様で色別できず、ＳＸ－２に関連するものかは不明である。出土遺物は24図の77～80である。77、78は磁器の碗である。77は復元口径9.8cm、器高5.1cm、復元底径4.2cmを測る。外面に唐草の染付を施す。肥前系で18C後半のものである。78は復元底径4.4cmを測る。外面は梅樹の染付か。18C後半のものと思われる。79は磁器の小坏になる。復元口径6.4cm、器高1.9cm、復元底径3 cmを測る。肥前系で1820～1860年代のものになる。80は陶器の壷の底部か。復元底径7.4cmを測る。

ＳＫ－４　ＳＫ－４は1区の中央やや西側で検出された。方形に掘り込まれ、コーナー部は直角に折れ曲がる。床面もフラットで、掘り方が丁寧である。約116cm×88cmの長方形で、深さ約60cmを測る。埋土は褐色で10～20cm程の礫が10数個検出された。ＳＫ－４の50cm程西側で井戸（ＳＥ－２）が検出され、これに関連する遺構であることが推測される。出土遺物は24図の82～87である。82～84は磁器の蓋になる。82は口径8.5cm、器高2.7cmを測る。肥前系で1820～1860年代のものである。83は口径9.7cm、外面に梅樹の染付を施す。関西系か。18C後半。84は口径6.8cm、器高2.85cmを測る。85は磁器の皿になる。復元口径12.8cm、器高2.55cm、復元底径9 cmを測る。



12図　石堂池遺跡近世遺構図（S＝1/500）



13図　SK－3、4、6、7、8、9図（S＝1/40）

外面に蛸唐草の染付を施す。86は磁器の筒型碗になる。復元口径5.9cmを測る。肥前系。18C。87は磁器の碗である。肥前系。18C。

ＳＫ－６　ＳＫ－６は１区の西側に位置する。円形で直径約64cm、深さ約12cmである20cm程の礫が詰め込まれるように出土した。性格は不明である。出土遺物は24図、88である。土師質土器の鉢である。復元底径19.4cmを測る。

ＳＫ－７　ＳＫ－７はＳＫ－６の北側約40cmに位置する。円形で直径約40cm、深さ約32cmである。ＳＫ－６と同様に20cm程の礫が詰め込まれるように出土した。またＳＫ－７の床面は漆くいのようなもので整地されていた。性格は不明であるが、ＳＫ－６と形状が酷似し関連が推測される。出土遺物は24、25図、89～97である。89、90は磁器の碗である。89は復元口径12.3cmを測る。肥前系。18C後半。90は復元口径14.3cmを測る。内面に植物と格子の染付を施す。肥前系。19C中葉。91は瓦質土器である。復元口径30.6cm、器高6.55cm、復元底径25.8cmを測る。内面に煤が付着する。92は土師質土器の火鉢である。復元口径18.4cm、器高8.9cm、復元底径13.8cmを測る。93は磁器の皿である。94は磁器の仏飯器である。復元底径3.6cmを測る。肥前系。18C後半～19C中頃。95は陶器の蓋になる。復元口径6.7cmを測る。外面にイッチン掛けを施す。関西系。18C後半。96は陶器の急須の口になる。97は筒型碗になる。

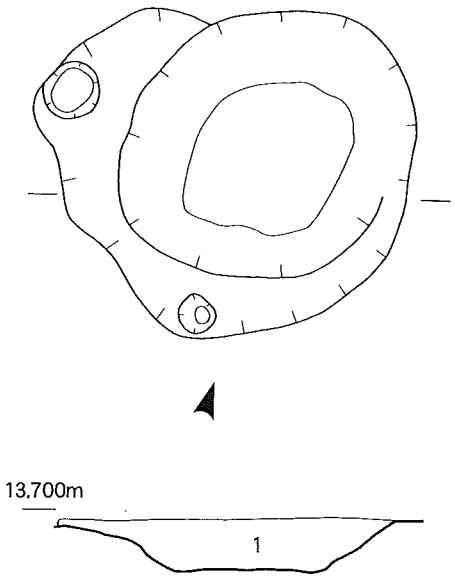
ＳＫ－８　ＳＫ－８はＳＫ－７の北側約80cmに位置する。円形で直径約116cm、深さ約56cmを測る。褐色の土が埋土する。出土遺物は伴わず性格、時期とも不明である。

ＳＫ－９　ＳＫ－９はＳＫ－８の北側に位置する。楕円形で長軸が約88cm、短軸は約76cm、深さ約40cmを測る。出土遺物は伴わず性格、時期とも不明である。

ＳＫ－11　ＳＫ－11は１区の西側に位置する。楕円形で東西約208cm、南北約180cm、深さ約28cmを測る。褐色のしまった土が埋土する。出土遺物は25図、98～105である。98～100は瓦質土器である。外面に煤が付着する。99も鉢か。100は火鉢である。101は土師質土器の大甕である。復元口径68.4cmを測る。102は土師質土器の鉢か。103は陶器の碗の底部である。底径4.7cmを測る。104は磁器の碗である。外面に風景の染付を施す。105は瓦質土器の茶釜か。

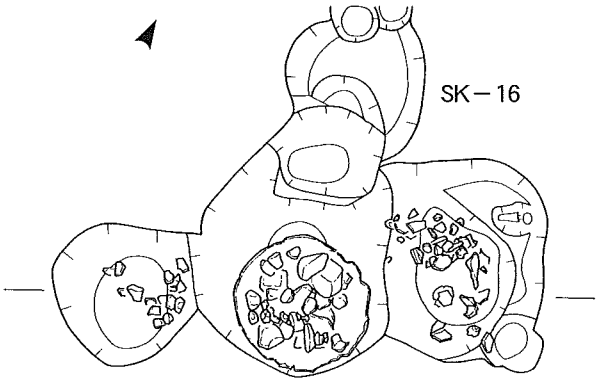
ＳＫ－12　ＳＫ－12は１区の西側に位置する。隅丸の方形で東西約120cm、南北約132cm、深さ約36cmを測る。床面はフラットである。出土遺物は伴わず、時期、性格は不明である。

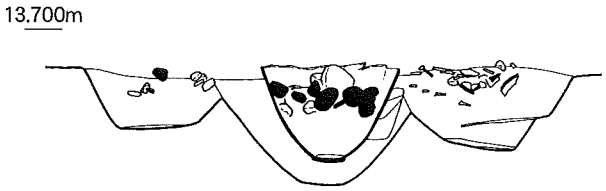
ＳＫ－13　ＳＫ－13は２区の西側に位置する。一部ＳＫ－14に切られる。楕円形で東西約52cm、南北約76cm、深さ約28cmを測る。出土遺物は25図の106、107である。106は土師質土器の壺の底部か。底径17.6cmを測る。107は陶器の行平鍋か。外面に煤が付着する。



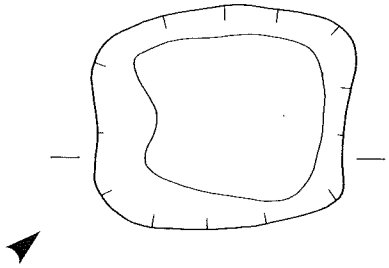
1　褐色土

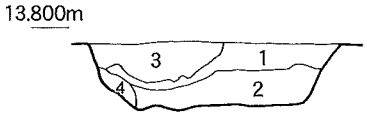
SK－11





SK13、14、15、16





1　褐色土
2　褐色土(黒色ブロックを含む)
3　黄褐色土
4　暗褐色粘質土

SK－12

14図　SK－11、12、13、14、15、16図（S＝1/40）

ＳＫ－14　ＳＫ－14はＳＫ－13とＳＫ－15の間に位置する。ＳＫ－13を切りＳＫ－15に切られる。楕円形で東西約100cm、南北約124cm、深さ約56cmを測る。内部には土師質土器の大甕が据えられる。甕は胴部以上約半分が消失していた。甕の上部は意図的に破壊されたものと推測される。甕の内部に河原石が検出される。出土遺物は25、26図の108～112である。108は陶器の碗である。復元口径8.1cmを測る。109は磁器の碗である。復元口径9.9cm、器高5 cm、底径4.4cmを測る。肥前系。18C。110は陶器の壺か。復元口径7 cmを測る。111は磁器の蓋である。復元口径8.2cmを測る。外面に松樹の染付を施す。112は土師質土器の大甕である。底径18.1cmを測る。内面に刷毛目、外面に指押さえ、板状圧痕を施す。

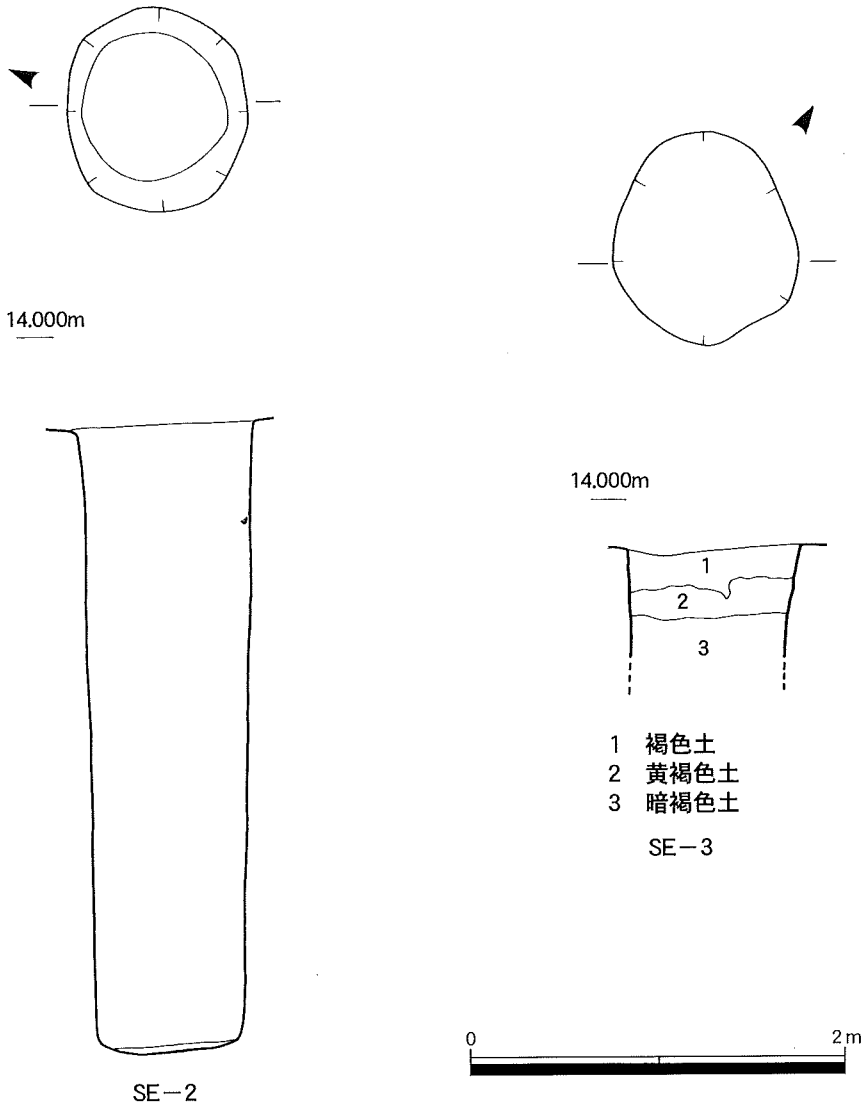
ＳＫ－15　ＳＫ－15はＳＫ－14の東側に位置する。ＳＫ－14を切る。楕円形で南北108cmを測る。東北壁に一段のテラス状のものを有する。出土遺物は27図の113～130である。113～116は陶器の碗になる。113は復元口径9.4cm、器高6.7cm、復元底径4.2cmを測る。肥前系。17C後半～18C前半。114は復元口径9 cm、器高5.75cm、底径3.4cmを測る。外面に笹の色絵を施す。関西系。115は復元口径9.6cm、器高4.9cm、復元底径3.8cmを測る。外面に植物の染付か。116は底径4.4cmを測る。肥前系。117～119は磁器の碗になる。117は復元底径3.1cmを測る。肥前系。18C後半か。118は底径3.8cmを測る。119は復元口径15.1cmを測る。肥前系。19C。120は陶器の鉢か。復元底径4.9cmを測る。121は磁器の碗か。底径4.6cmを測る。122は磁器の皿である。復元底径8 cmを測る。肥前系。123は瓦質土器の火鉢である。124は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。125は陶器の甕。126、127は陶器の擂鉢である。128、129は陶器の瓶である。128は外面に刷毛目を施す。肥前系。18C後半。130は磁器の壺か。復元底径11.6cmを測る。

ＳＫ－16　ＳＫ－16はＳＫ－14の北側に位置し、ＳＫ－14を一部切る。不定形で、東西約72cm、南北約48cm、深さ約37cmを測る。出土遺物は伴わず、時期、性格は不明である。

（２）井戸

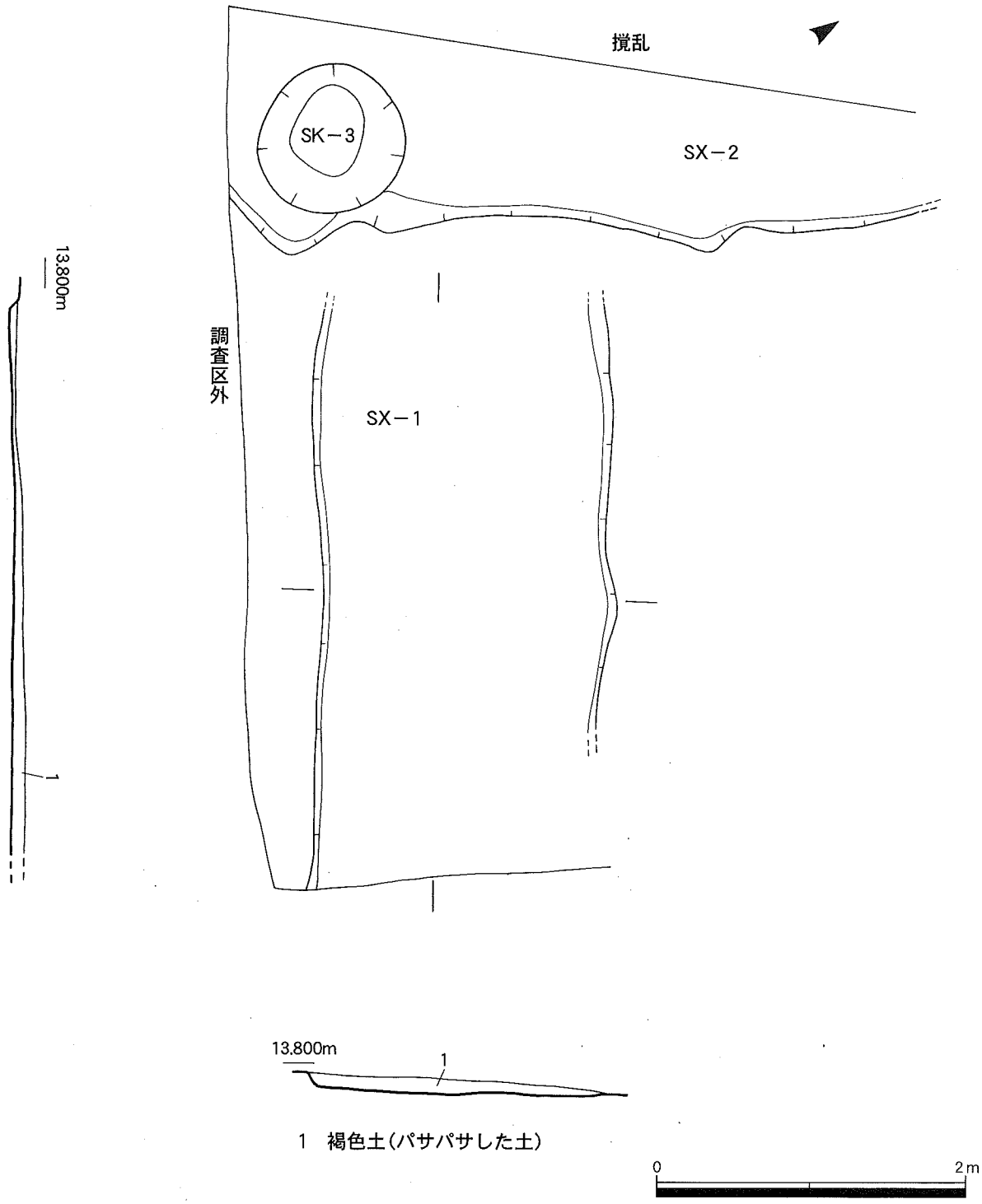
井戸は１区のＳＥ－１、２、３、１区と２区の中間地点にＳＥ－４、２区と３区の間にＳＥ－６が確認された。このうちＳＥ－１、ＳＥ－４、ＳＥ－６は調査前から地表面で確認されていた。井戸には水がたまり調査は不可能と判断し、平板測量で位置を表記したのみである。

ＳＥ－２　ＳＥ－２は１区の南東側に位置する。円形で直径約100cm、深さ約328cmを測る。地盤が固く崩落の危険はないと判断し掘り下げた。40cm掘り下げると20cm程の礫が数十個検出された。これより下層は暗褐色の土層である。出土遺物は28、29、30図の131～160である。131～143は磁器の碗になる。131は復元口径9.3cm、器高5.45cm、復元底径4.4cmを測る。肥前系。18C後半。132は復元口径9.6cm、器高7.45cm、復元底径5 cmを測る。外面に唐草の染付を施す。133は口径10.2cm、器高5.6cm、底径4.1cmを測る。外面に梅樹、雪輪の染付を施す。134は復元口径7.5cm、器高3.9cm、復元底径4.5cmを測る。関西系。18C後半。137は口径10.6cm、器高7.5cm、底径4.8cmを測る。肥前系。138は復元口径9.2cm、器高5.05cm、底径3.7cmを測る。外面に植物の染付か。



15図　SE－2、3図（S＝1/40）

写真1　SE－4



16図　SX－1、2図（S＝1/40）

139は復元底径4.4cmを測る。外面に刷毛目を施す。肥前系。17C後半～18C前半。140は復元底径4.1cmを測る。外面に植物の染付か。142は底径4.4cmを測る。143は復元底径4.1cmを測る。外面に植物の染付か。144は磁器の紅皿である。口径6.5cm、器高2.8cm、底径2.6cmを測る。外面に笹の染付を施す。肥前系。18C後半。145は陶器の甕か。復元口径33.1cmを測る。口縁部に刷毛目を施す。146は磁器の皿か。底径9.2cmを測る。147は陶器の鉢である。復元底径8 cmを測る。148は瓦質土器。149は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。150は陶器の蓋である。口径9.9cmを測る。底部に糸切りを施す。151は陶器の灯明皿である。口径9.1cm、底径4.3cmを測る。底部に糸切りを施す。152は土師質土器の小皿である。口径8.7cm、器高1.7cm、底径6.6cmを測る。底部に糸切を施す。153、154は土師質土器の鉢か。153は復元口径29.8cm、154は復元口径22.2cmを測る。155は陶器の火容か。口径13.2cm、器高7.5cm、底径13.7cmを測る。156は陶器の鉢である。復元口径22cm、器高12.1cm、復元底径10cmを測る。肥前系。157は土師質土器である。器種は不明である。外面にミガキを施す。158は土師質土器の甕である。復元口径37.9cmを測る。内面に刷毛目を施す。159は土師質土器の大甕である。復元口径69cmを測る。内面に刷毛目、あて具痕を施す。160は陶器の擂鉢である。復元口径40cmを測る。18C前半～19C中頃。

ＳＥ－３　ＳＥ－３は１区の西側で検出された。埋土上層はＳＥ－２と酷似する。円形で直径116cmを測る。事業において遺構が破壊されないこと、ＳＥ－２を完屈したことからＳＥ－３は検出面より約60cm掘り下げ、井戸になると判断した。上層からの出土遺物はない。

（３）不明遺構

不明遺構はＳＸ－１、ＳＸ－２が１区の南西側で検出された。

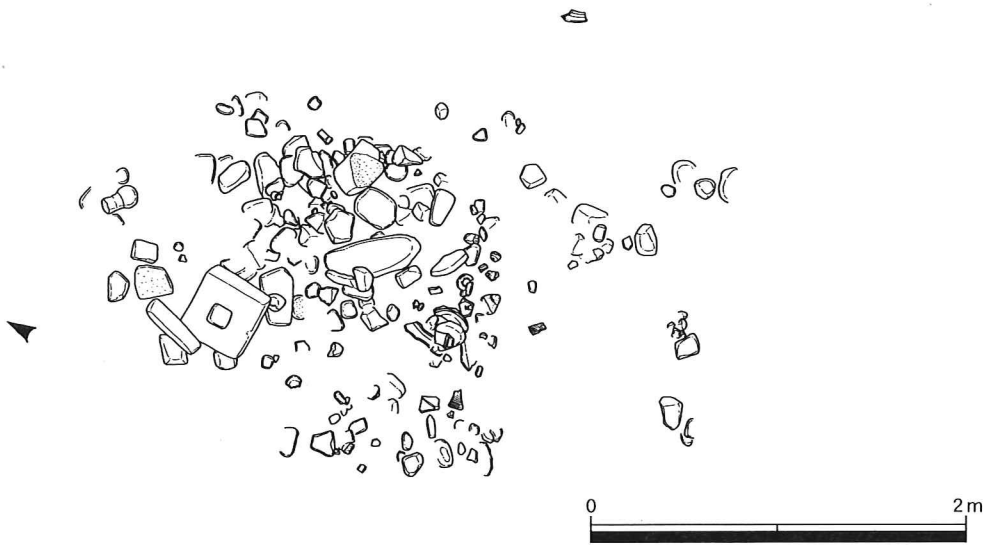
ＳＸ－１　ＳＸ－１は検出された部分で最大幅188cm、深さ8 cmを測る。床面はフラットである。出土遺物はないが、埋土が褐色であることから近世の遺構であると判断した。

ＳＸ－２　ＳＸ－２はＳＸ－１の西側に位置する。ＳＸ－２の西側は撹乱を受け幅は不明である。長さも南側は調査区外に、北側は遺構の掘り込みが浅く消滅し不明である。深は約10cm、埋土はＳＸ－１に酷似する。出土遺物は伴わないがＳＸ－１と同時期であると推測される。

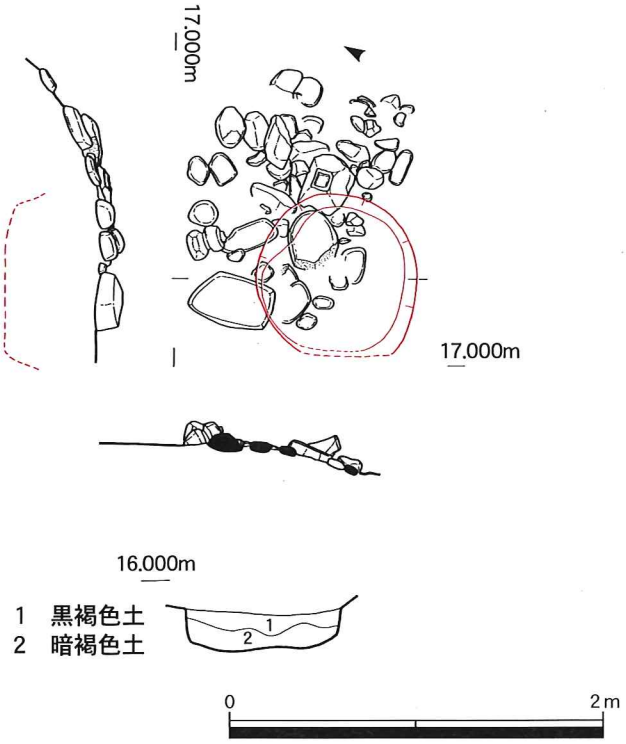
（４）集石遺構

集石遺構は１区の土塁２の上部に集石遺構１が、３区の南端に集石遺構２が位置する。いずれも地表面に墓石、石、近世の遺物が検出された。

集石遺構１　集石遺構１は土塁２の北側の上部に散乱していた。30図、161は磁器の小坏である。復元口径6.1cmを測る。肥前系。18C。162、163は磁器の碗である。162は復元底径6 cmを測る。外面に花唐草の染付を施す。163は口径6.3cm、器高5.2cm、底径3.4cmを測る。肥前系。1820～1860年代。164は磁器の仏飯器である。底径4 cmを測る。165は磁器の皿である。内面に寿の刻



17 図　集石遺構 1 図（S ＝ 1/40）



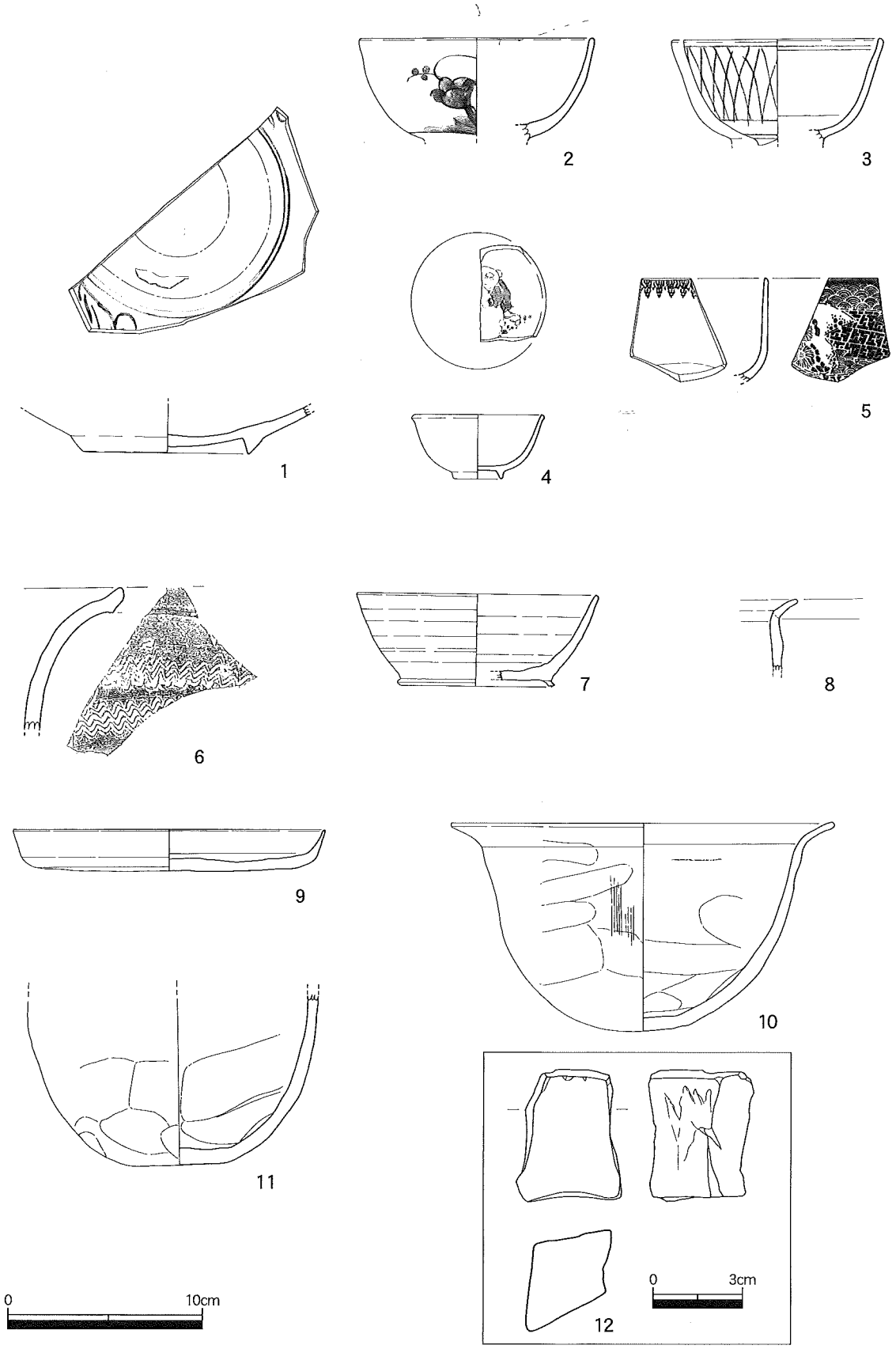
18 図　集石遺構 2 図（S ＝ 1/40）

印を施す。瀬戸美濃。166 は陶器の皿である。復元底径 4.2cm を測る。唐津系。167 は土師質土器か。168 は土師質土器の小皿である。復元口径 10.1cm、器高 1.85cm、復元底径 8.4cm を測る。169 は瓦質土器の火鉢か。復元底径 24.6cm を測る。170 は土人形。32 図、191 は石塔。192 は五輪塔。191、192 の石材は安山岩である。

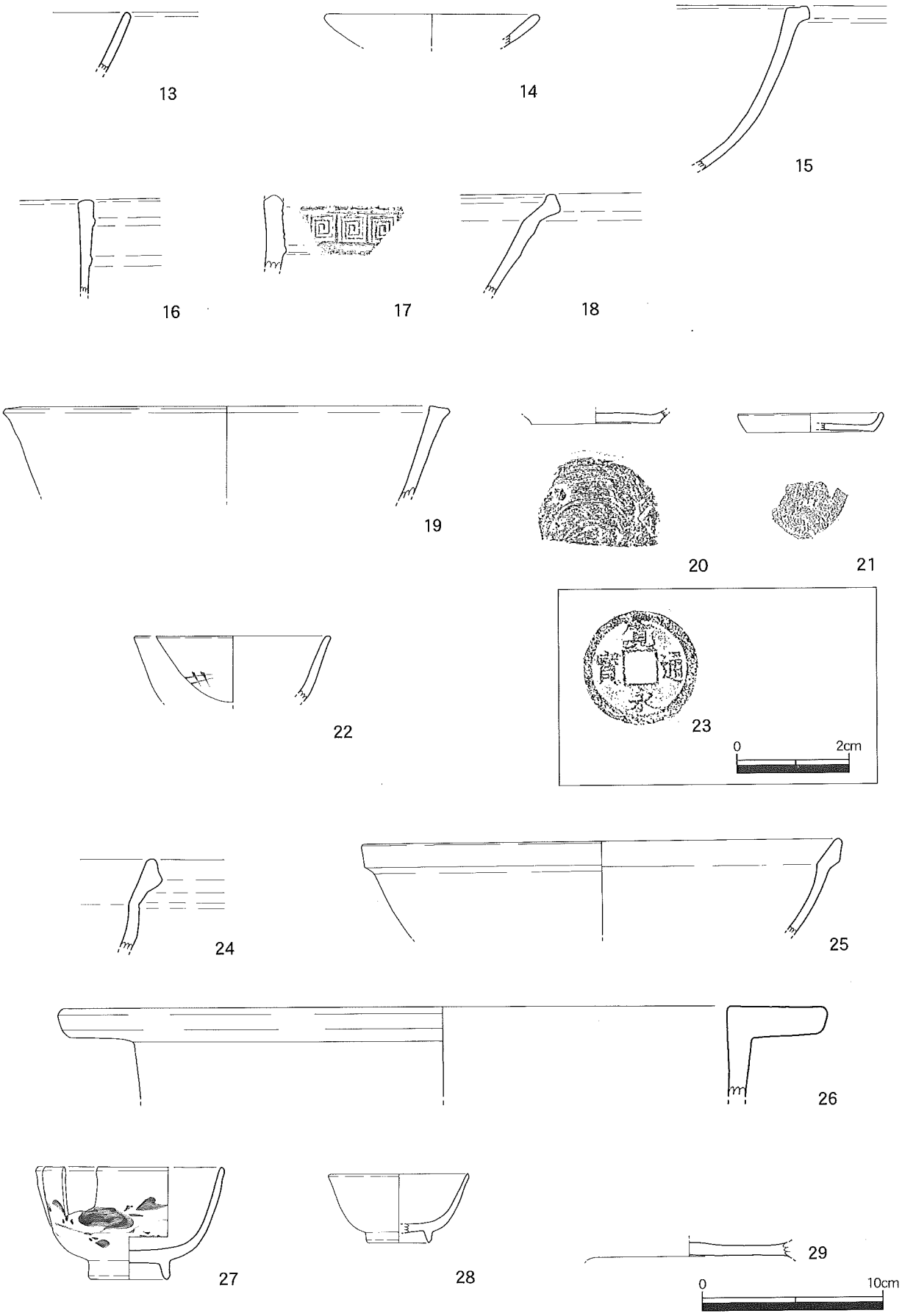
集石遺構 2　集石遺構 2 は 3 区の南端に墓石、石が表面にまとめられるように検出された。墓石、石を取り除くと直下で円形の土壙を検出した。土壙は直径約 164cm、深さ約 42cm である。墓石に伴うものかは不明である。土壙からの出土遺物は 1 点もなく時期、性格は不明である。193 は角塔婆。194、195 は五輪塔。196 は板碑。(33 図) いずれも石材は安山岩である。

(5) Pit 状遺構

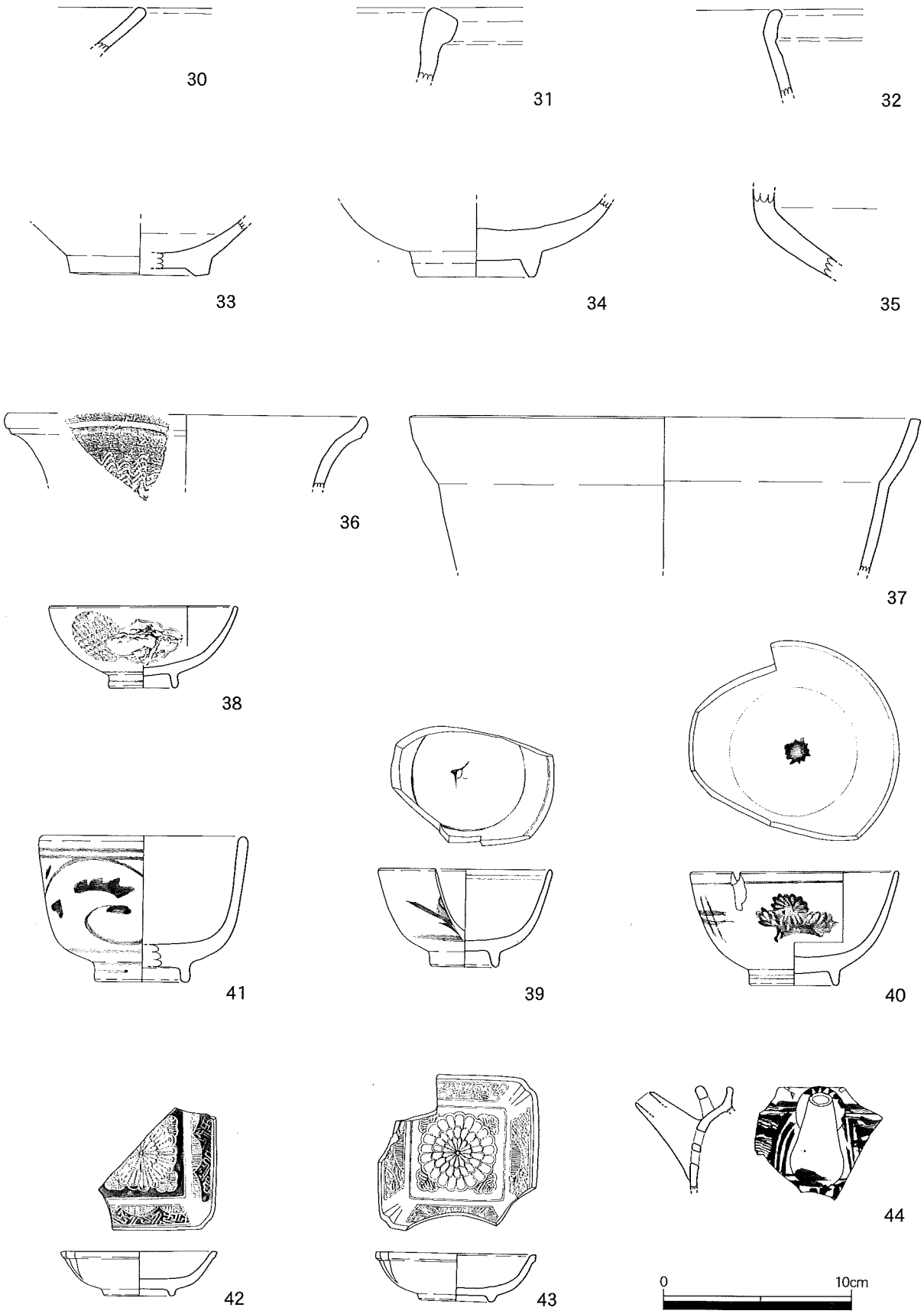
Pit は褐色のものを近世のものと判断した。1 区の中央部と 2 区の西側に Pit が集中して検出された。直線に並ぶものが見られるが建物の形をなぞることはできなかった。Pit10 から 31 図の 184、瓦質土器の鉢。Pit22 から 31 図の 187、188 が出土した。187 は陶器の碗である。復元口径 13.3cm を測る。188 は陶器の甕である。外面に波状文を施す。Pit24 から 31 図の 189 が出土した。瓦質土器の壺か。



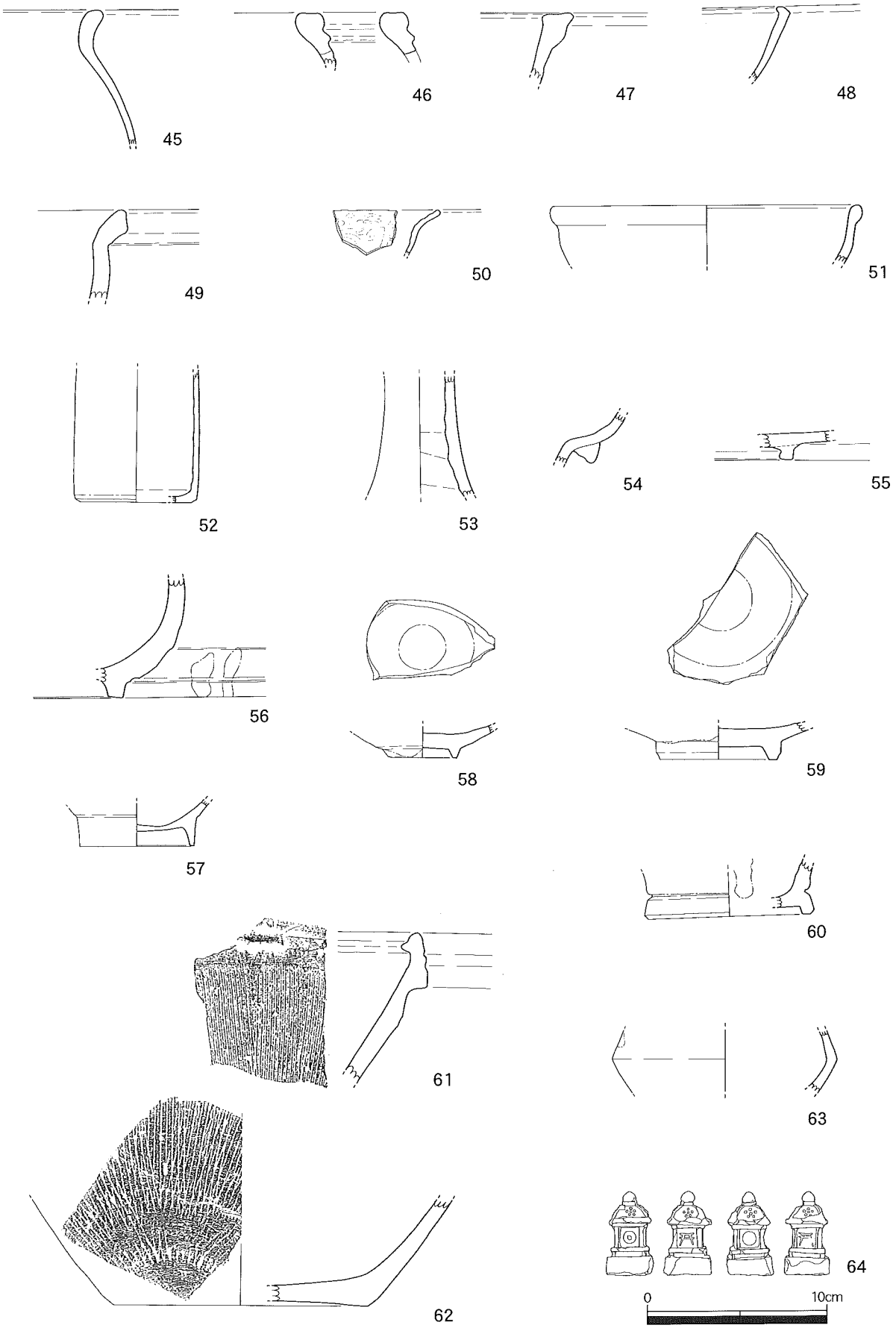
19 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



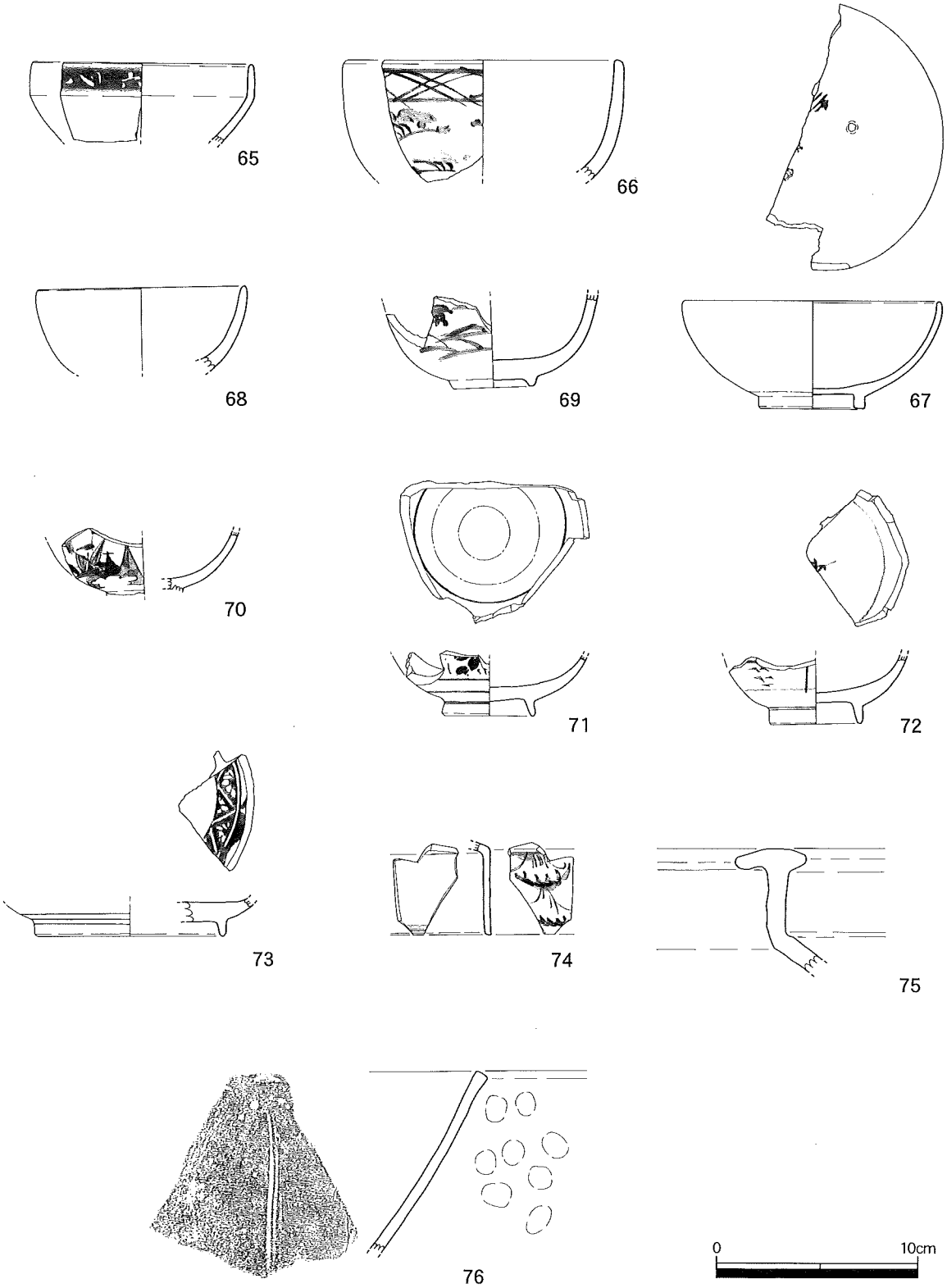
20 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



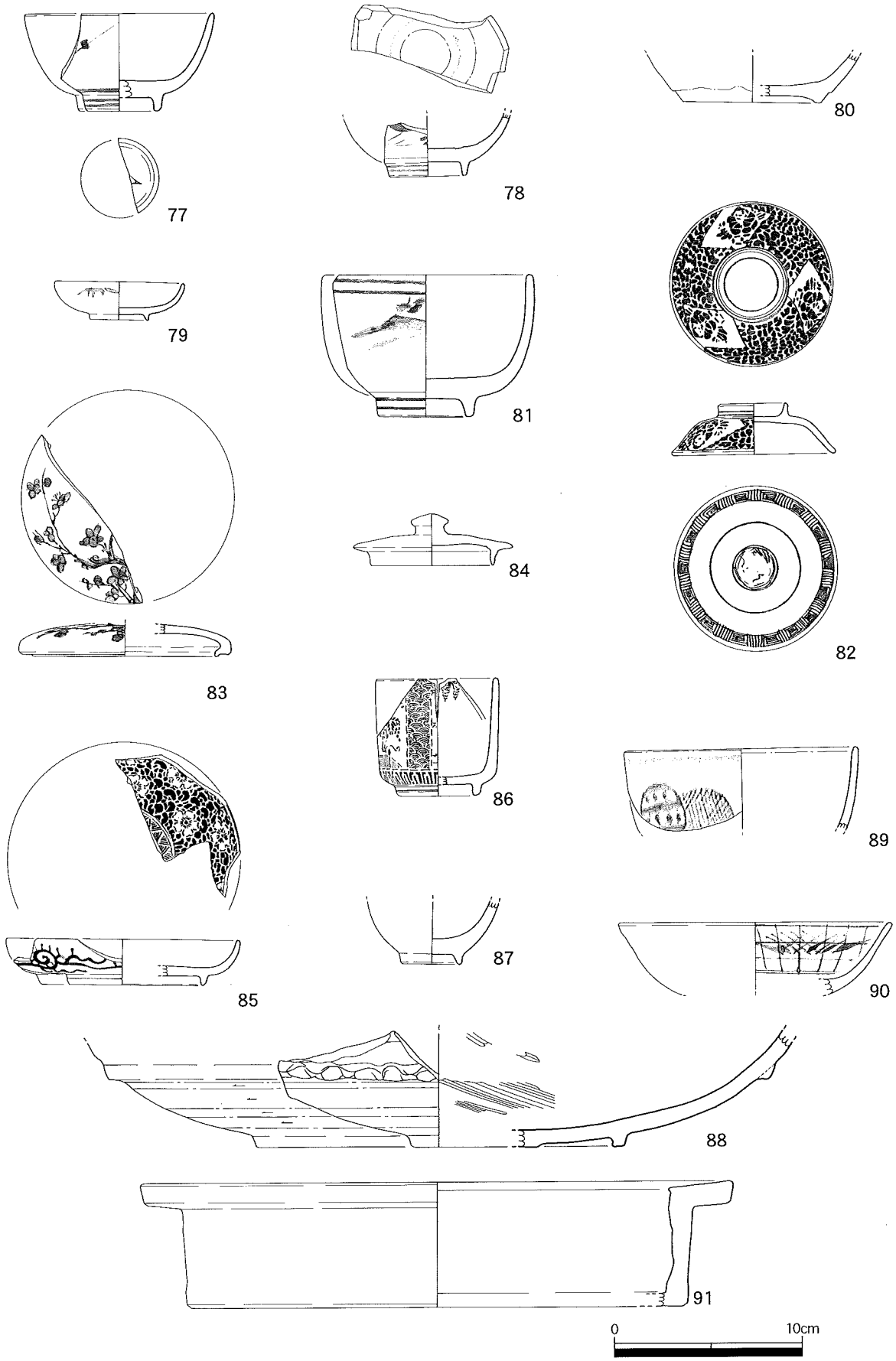
21図　石堂池遺跡出土遺物実測図



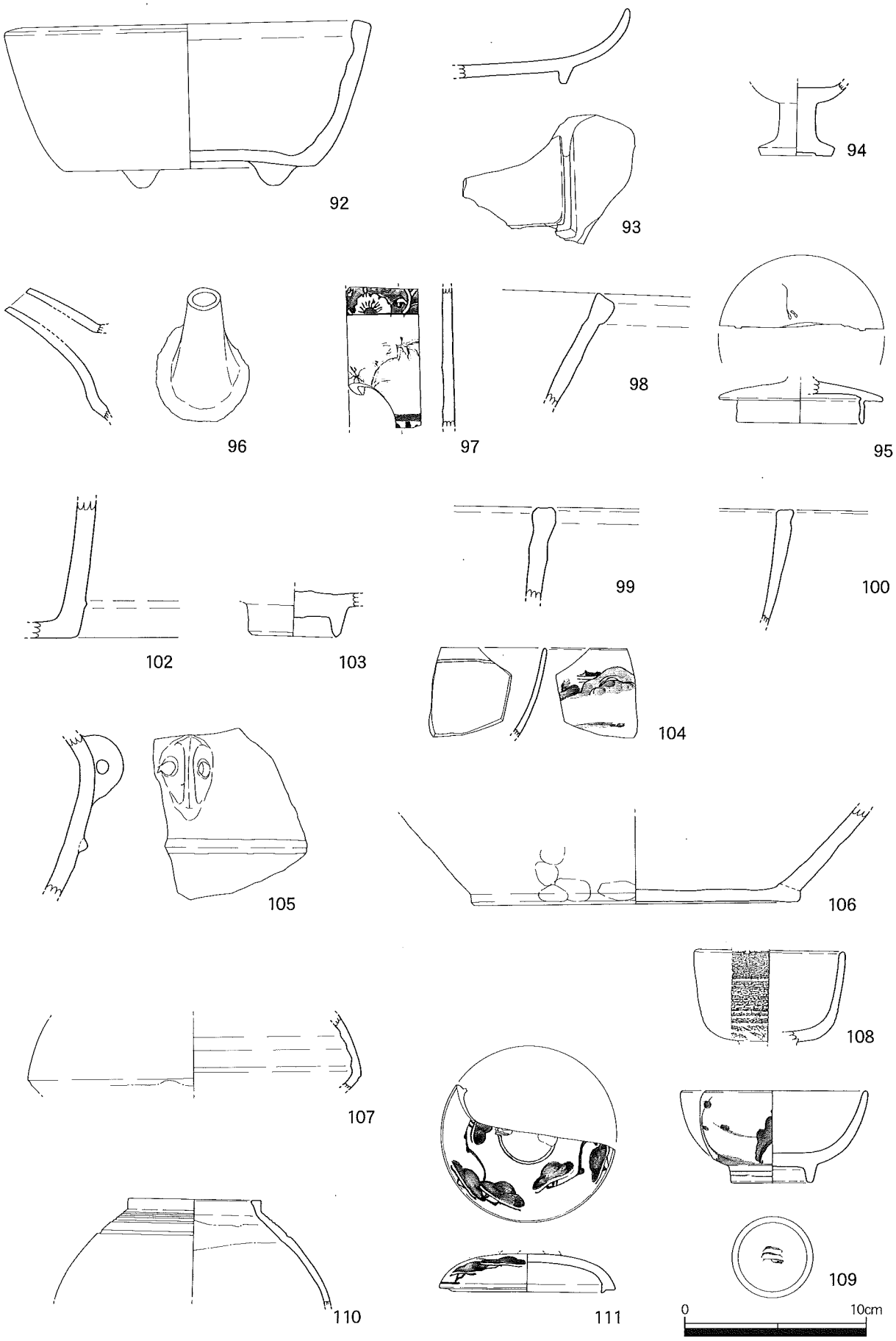
22 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



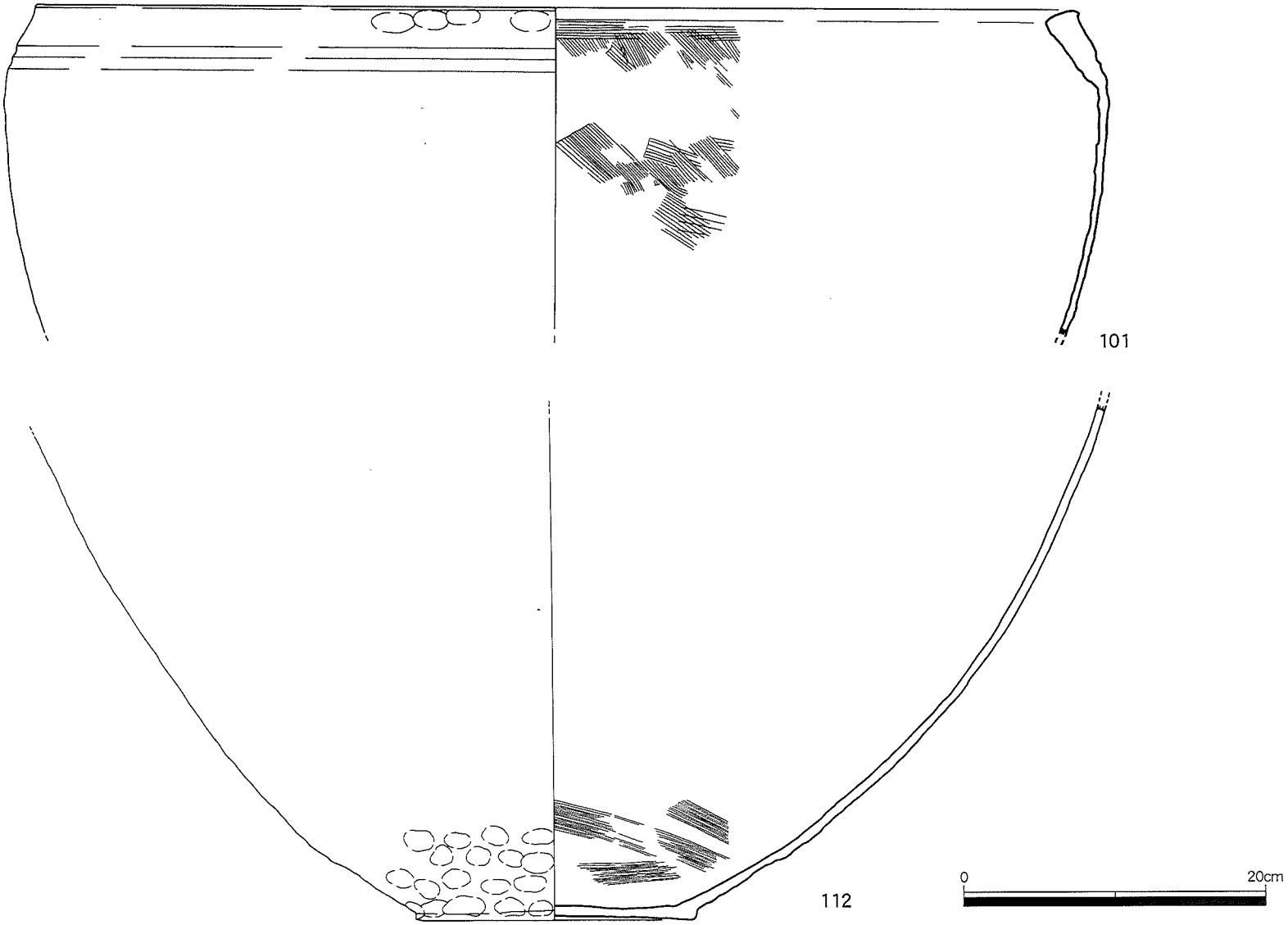
23 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



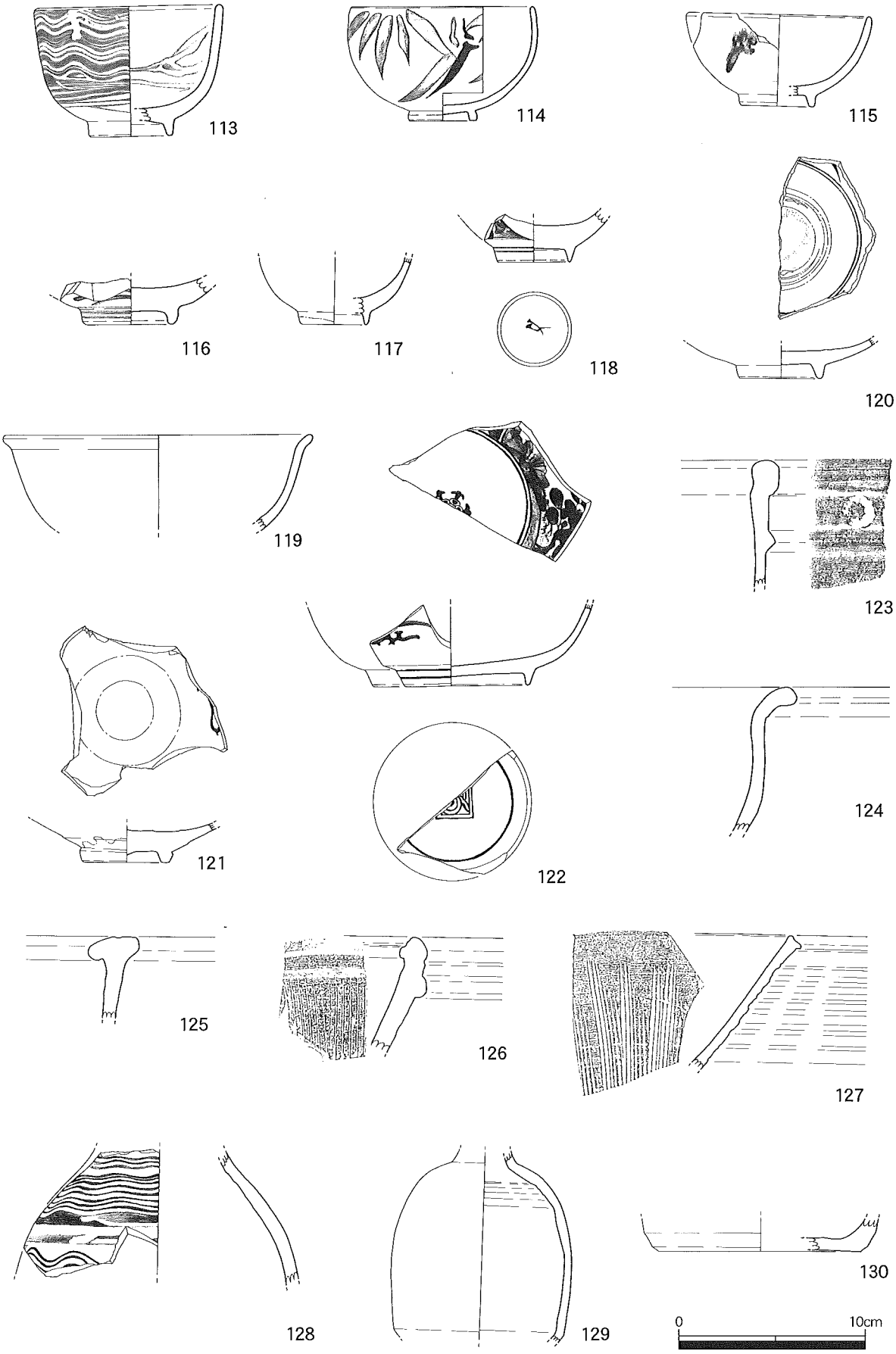
24図　石堂池遺跡出土遺物実測図



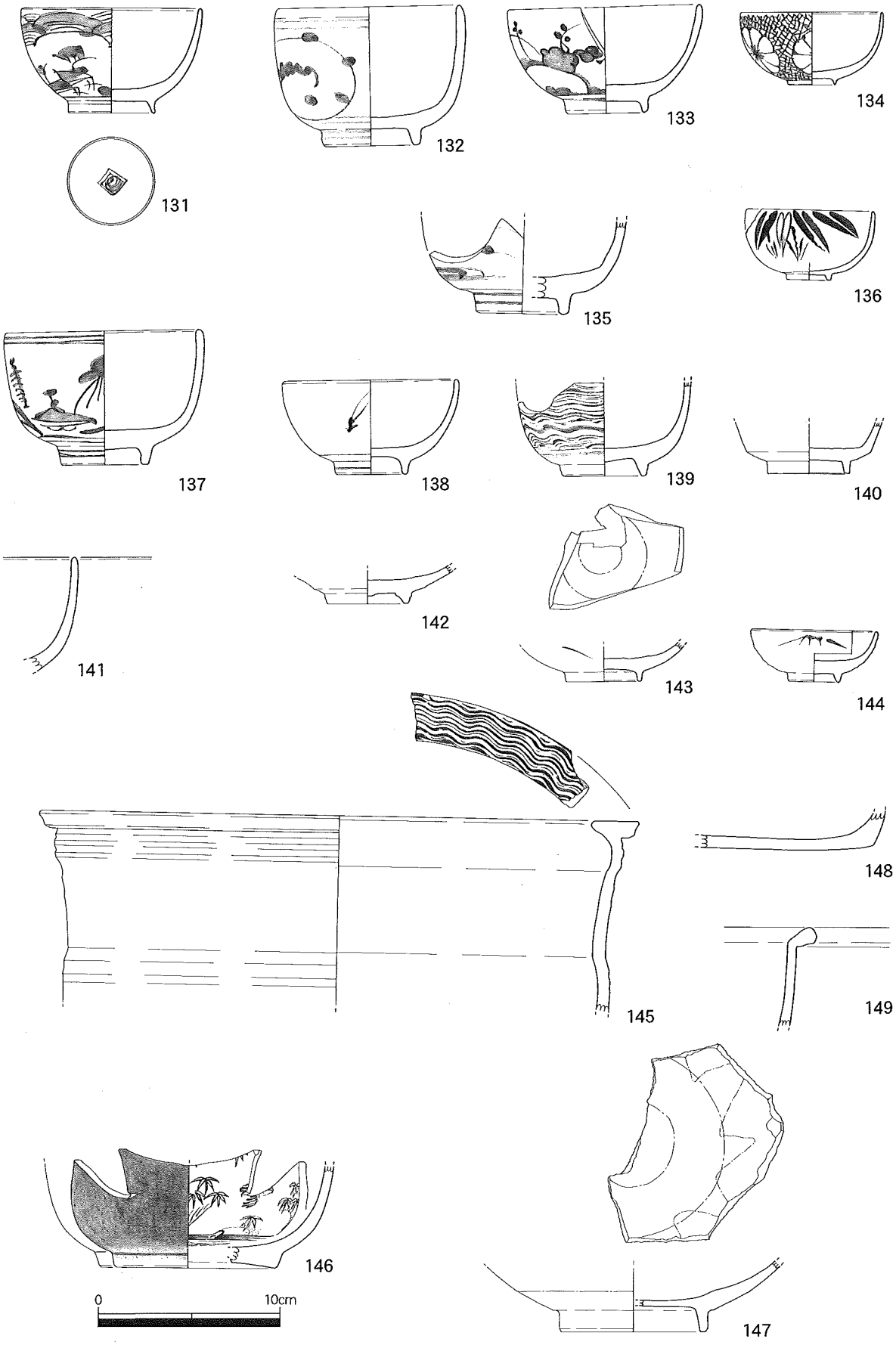
25 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



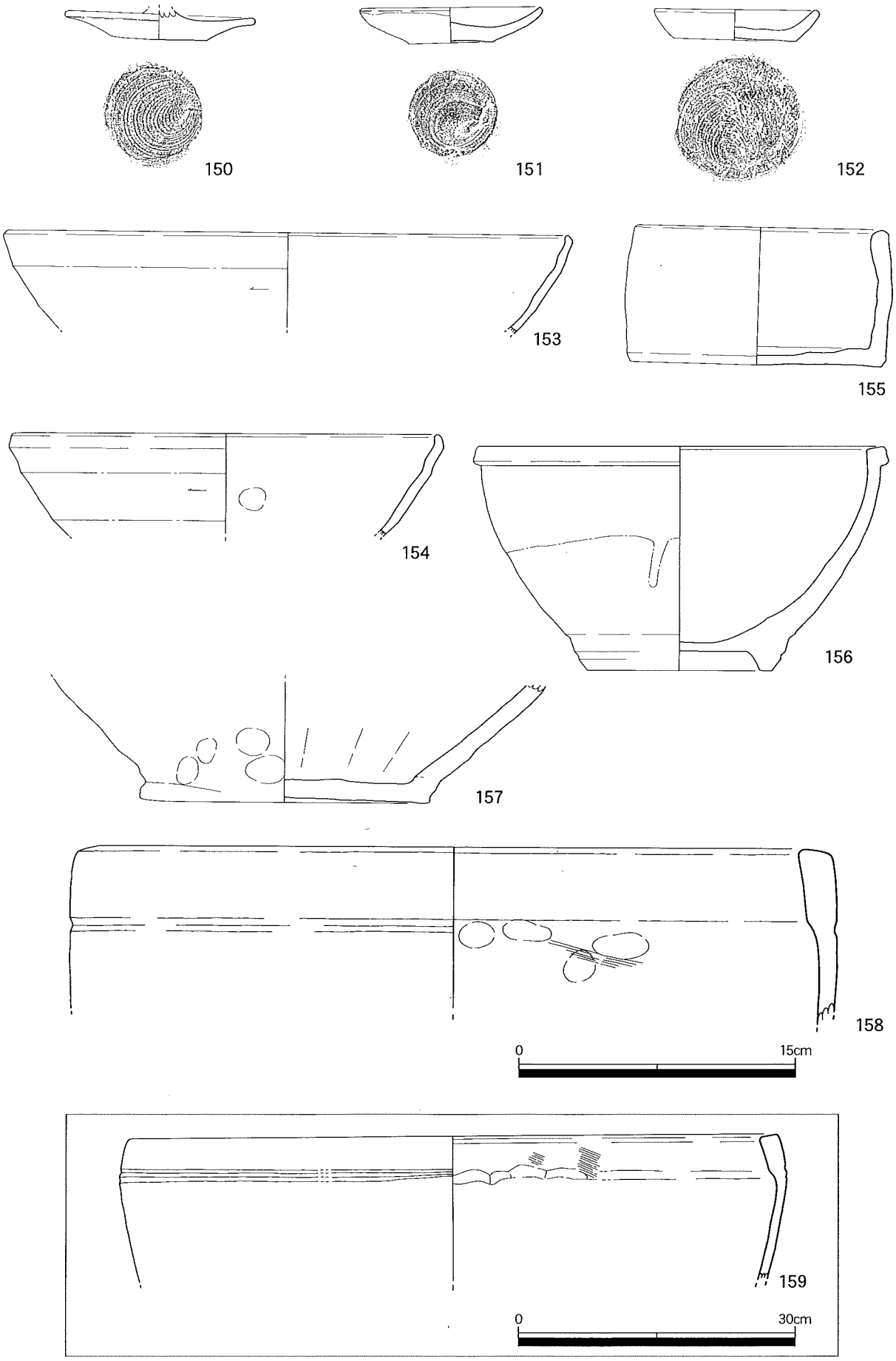
26 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



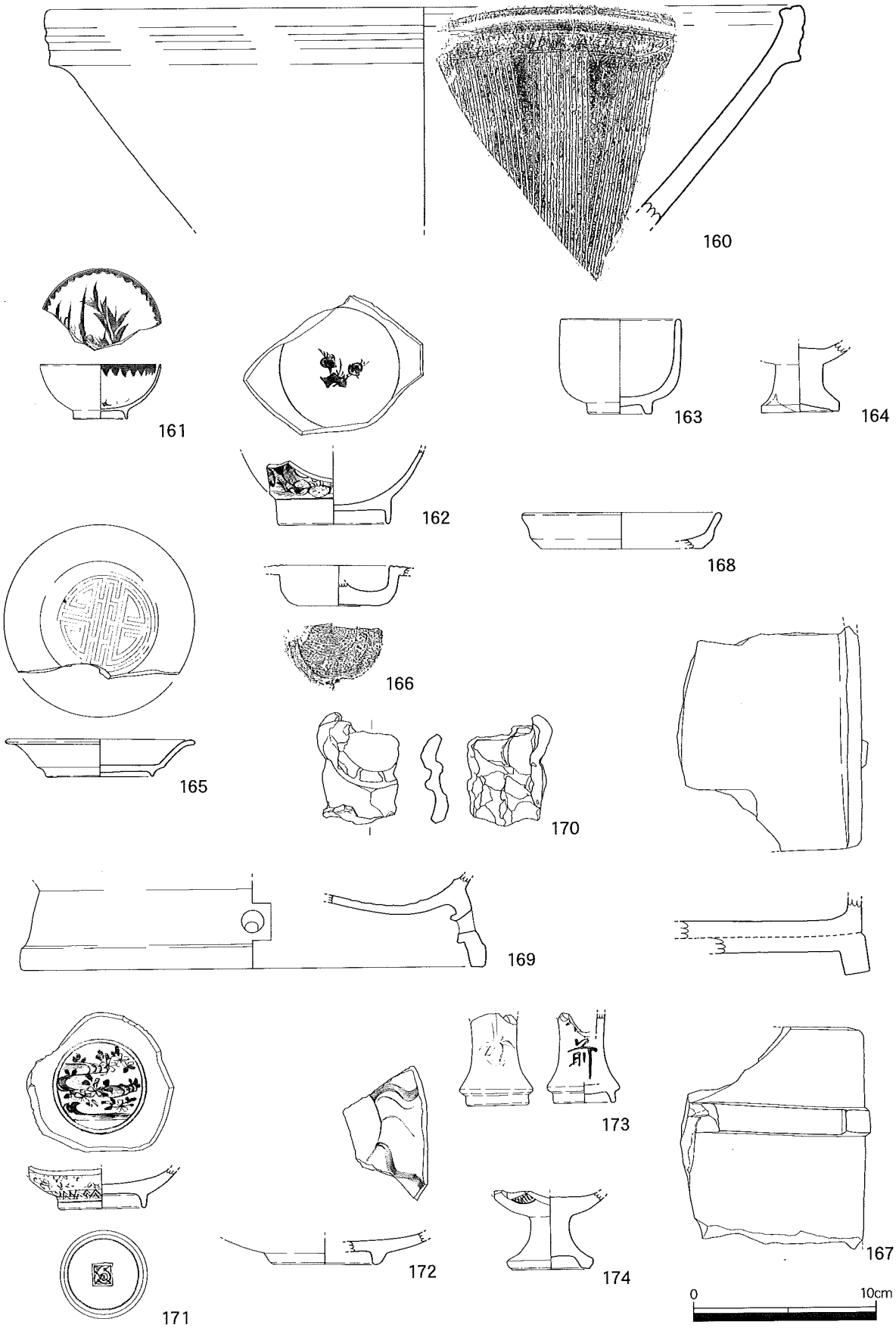
27 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



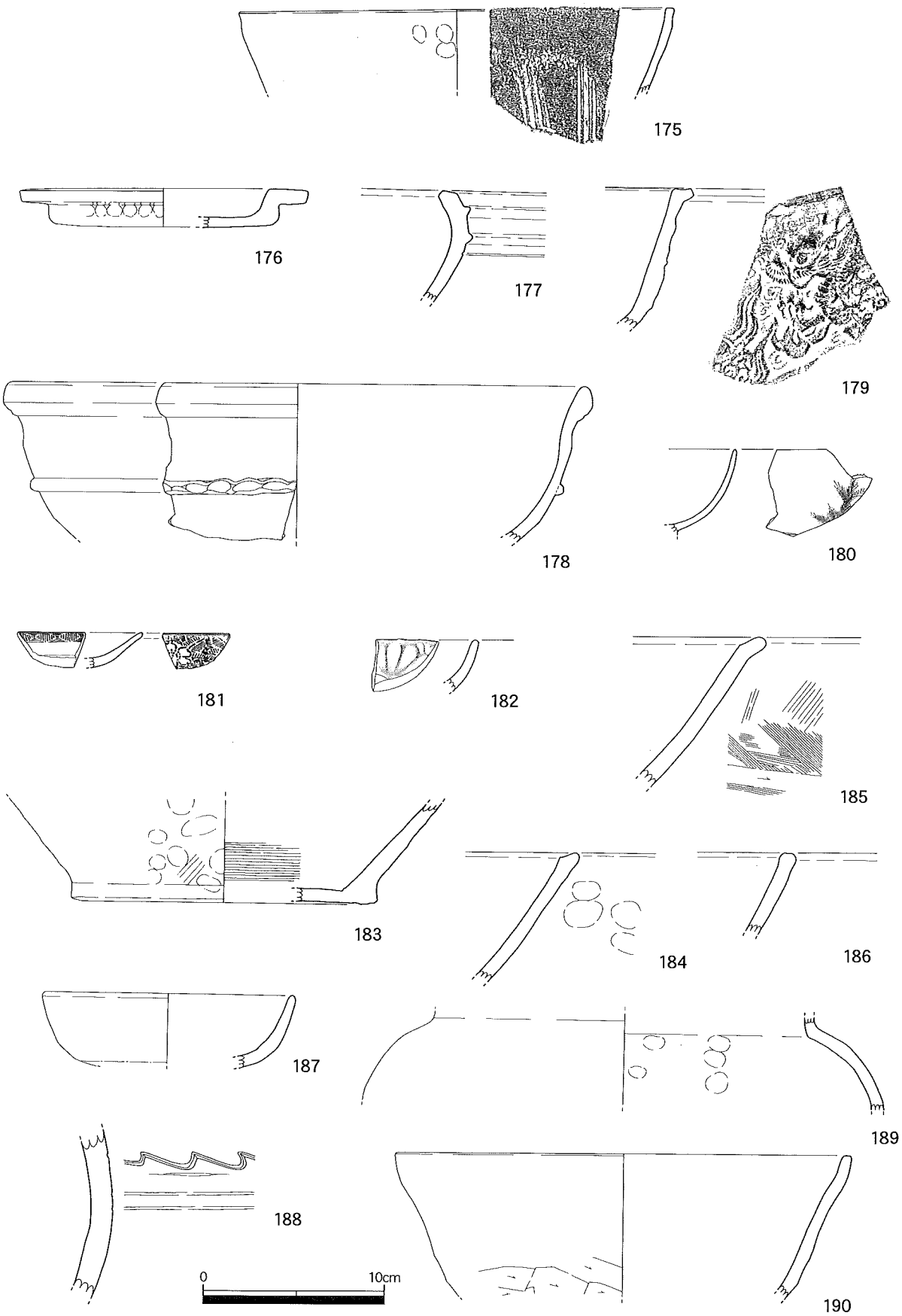
28 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



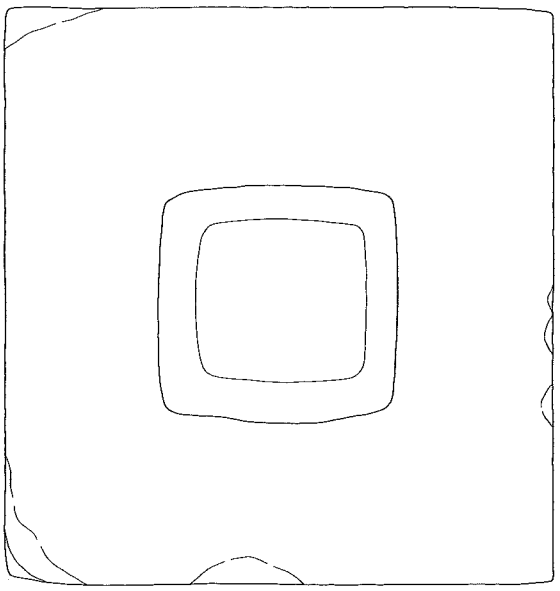
29 図　石堂池遺跡出土遺物実測図

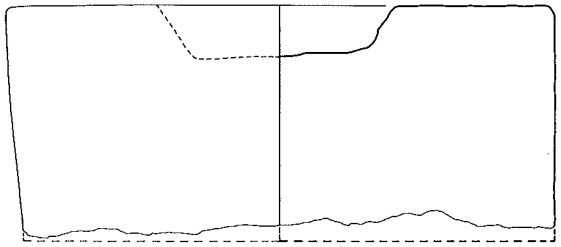


30 図　石堂池遺跡出土遺物実測図

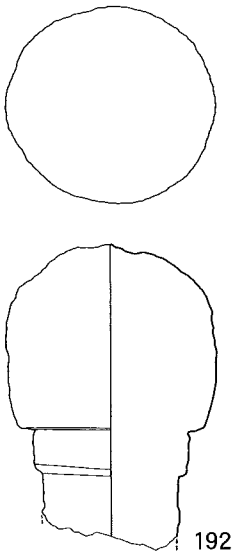


31 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



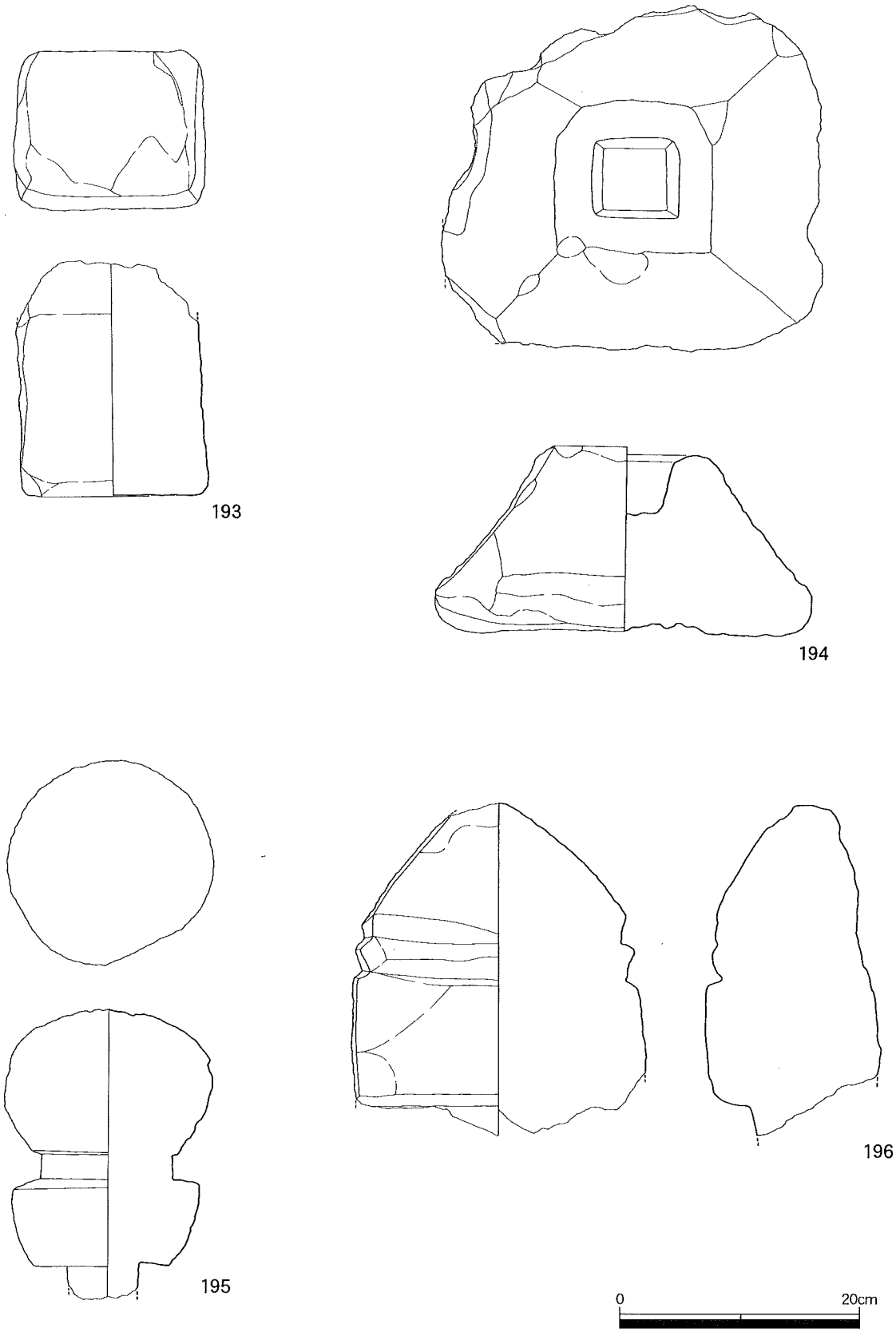


191



192

32 図　石堂池遺跡出土遺物実測図



33 図　石堂池遺跡出土遺物実測図

石堂池遺跡陶磁器、瓦質土器観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)			装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
				口径	器高	底径	絵付釉薬	文様	特徴				
1	SK-1	磁器	皿	—	2.5以上	(8.6)	染付 透明	内:連続唐草?	—	—	肥前	18C後半	別個体融着? 蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
2	SK-1	磁器	碗	(11.6)	5.1以上	—	染付 透明	外:梅樹、雪輪	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
3	SK-1	磁器	碗	(10.4)	5.3以上	—	染付 透明	内: 外:網目	—	—	肥前	18C後半	
4	SK-1	磁器	小坏	(6.2)	3.1	(2.3)	色絵 透明	内:人物	—	—	—	18C前半	
5	SK-1	磁器	碗	—	5.0以上	—	染付 透明	内:輪宝繋ぎ 外:青海波、花	—	—	肥前	18C前半	
13	SK-2	磁器	碗	—	2.7以上	—	青磁	—	—	—	—		
22	SK-2	磁器	碗	(10.8)	3.7以上	—	染付 透明	外:井桁	—	—	肥前	18C後半～ 19C中頃	
26	SK-5	瓦質土器	火鉢	(40.0)	4.8以上	—	—	—	—	—	—		
27	SK-5	磁器	碗	(9.5)	5.8	(4.0)	染付 透明	外:花卉	—	—	瀬戸 美濃	1820～ 1860年代	ハリ支え有(見込み)
28	SK-5	磁器	小碗	(7.6)	3.8	(3.4)	透明	—	口銹	—	肥前	18C後半	
29	SK-5	瓦質土器		—	0.9以上	—	—	—	—	—	—		
33	SD-1 下層	磁器	碗? 鉢?	—	2.4以上	(5.4)	青磁	—	—	—	肥前	18C	
34	SD-1	陶器	碗	—	3.8以上	(6.0)	透明	—	—	—	肥前	18C後半	
38	SD-1	磁器	碗	9.5	4.25	3.4	染付 透明	外:七宝繋ぎ、風景?	—	—	—		
39	SD-1	磁器	碗	(8.9)	5.15	3.5	染付 透明	外:草花?	—	花	肥前	18C後半	
40	SD-1	磁器	碗	10.4	5.8	(4.4)	染付 透明	外:井桁、花	—	花	肥前	18C?	
41	SD-1	陶胎?	碗	(10.4)	7.6	(4.8)	染付 透明	外:唐草	—	—	肥前	18C前半～ 中頃	
42	SD-1	磁器	角皿	(7.8)	2.3	(3.4)	染付 透明	内:雷	—	菊花	—		型打有(内面)
43	SD-1	磁器	角皿	(8.2)	2.45	3.6	白磁	内:雷	—	菊花	—		型打有(内面)
44	SD-1	磁器	急須	—	5.8以上	—	白泥? 染付、透明	外:	—	—	—		
50	SD-3 下層	磁器	鉢?	—	2.5以上	—	白磁	内:花卉?	—	—	—		型打有(内面)
51	SD-3 下層	陶器	鉢	(15.6)	3.0以上	—	白泥 透明	—	—	—	肥前	18C	
52	SD-3 上層	磁器	筒型碗	—	6.7以上	(5.6)	白磁	—	—	—	—		
53	SD-3 上層	磁器	瓶類	—	5.7以上	—	白磁	—	—	—	—		
54	SD-3 下層	磁器	三足付 香炉	—	2.2以上	—	青磁	—	—	—	肥前	18C～19C?	
56	SD-3 下層	陶器	不明	—	6.6以上	—	鉄釉	—	—	—	—		
57	SD-3 上層	陶器	碗	—	2.3以上	6.3	鉄釉	—	—	—	肥前	1780～ 1820年代	広東碗
58	SD-3 上層	磁器	皿	—	1.5以上	3.7	透明	—	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
59	SD-3 下層	陶器	皿	—	1.6以上	(6.4)	緑釉	—	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
60	SD-3 上層	磁器	鉢?	—	2.4以上	(8.4)	白泥 透明	—	—	—	—		
61	SD-3 下層	陶器	鉢	—	8.4以上	—	鉄釉	—	—	—	堺	18C前半～ 中頃	
62	SD-3 下層	陶器	擂鉢	—	5.9以上	(14.4)	—	—	—	—	肥前	18C	
63	SD-3 下層	陶器	不明	—	3.2以上	—	鉄釉	—	—	—	—		
65	SD-3 下層	磁器	碗	(10.4)	3.8以上	—	染付 透明	外:横縞 漢字「八」「丙」「六」	—	—	肥前	18C前半	
66	SD-3 上層	陶器	碗	(12.8)	5.6以上	—	染付 透明	外:草花、格子目	—	—	肥前	18C後半	
67	SD-3 下層	陶器	碗	(12.2)	5.15	(5.0)	染付 透明	内:	—	—	肥前	18C後半	ハリ支え有(見込み)
68	SD-3 下層	磁器	碗	(10.1)	4.1以上	—	透明	—	口銹	—	—		
69	SD-3 下層	磁器	碗	—	4.2以上	(3.8)	染付 透明	外:草花?	—	—	肥前	18C後半	
70	SD-3 下層	磁器	碗	—	2.5以上		染付 透明	外:風景?植物?	—	—	—		
71	SD-3 上層	磁器	碗	—	2.8以上	4.8	染付 透明	内: 外:草花?	—	—	肥前	18C	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
72	SD-3 下層	磁器	碗	—	3.1以上	(4.3)	染付 透明	外:笹?	—	花?	肥前	18C前半～ 中葉	
73	SD-3 下層	磁器	皿	—	1.5以上	(8.8)	染付 透明	内:	—	—	肥前	18C末～ 19C中頃	
74	SD-3 下層	陶器	碗?	—	4.4以上	—	染付 透明	内: 外:笹?	—	—	関西	18C後半	
75	SD-3 上層	陶器	甕	—	5.6以上	—	鉄釉	—	—	—	肥前唐 津系?	18C後半	
76	pit12	瓦質土器	鉢	—	9.1以上	—	—	—	—	—	—		
77	SK-3	磁器	碗	(9.8)	5.1	(4.2)	染付 透明	外:唐草	—	葉?	肥前	18C後半	
78	SK-3	磁器	碗	—	3.5以上	(4.4)	染付 透明	外:梅樹?	—	—	肥前?	18C後半	蛇ノ目釉はぎ有(見込み) 砂目積み有(見込み)
79	SK-3	磁器	小坏	(6.4)	1.9	(3.0)	染付 透明	外:笹	—	—	肥前	1820～ 1860年代	

石堂池遺跡陶磁器、瓦質土器観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)			装飾			底面	製作地	製作年代	備考
				口径	器高	底径	絵付釉薬	文様	特徴	内底			
80	SK-3	陶器	壺？	—	2.5以上	(7.4)	白泥？ 透明	—	—	—	—	18C	
81	SK-5 SK-3№26	陶胎？	碗	(10.4)	7.2	(4.6)	染付 透明	外:風景	—	—	肥前	1820～ 1860年代	
82	SK-4	磁器	蓋	8.5	2.7	—	染付 透明	内:雷 外:	—	松竹梅 円形？	肥前	1820～ 1860年代	
83	SK-4	磁器	蓋	(9.7)	1.7以上	—	染付 透明	外:梅樹	—	—	関西？	18C後半	
84	SK-4	陶器	蓋	6.8	2.85	—	透明	—	—	—	関西？	18C	
85	SK-4	磁器	皿	(12.8)	2.55	(9.0)	染付 透明	内:桜花散らし 外:蛸唐草	口銹	—	肥前	18C後半	
86	SK-4	磁器	筒型碗	(5.9)	5.85	(4.0)	染付 透明	内:輪宝繋ぎ 外:青海波、草花	—	—	肥前	18C	
87	SK-4	磁器	碗	—	3.0以上	(2.8)	青磁	—	—	—	肥前	18C	
89	SK-7	磁器	碗	(12.3)	4.45以上	—	染付 透明	外:丸	—	—	肥前	18C後半	
90	SK-7	陶器	碗	(14.3)	3.8以上	—	染付 透明	内:植物、格子	—	—	肥前	19C中葉	
91	SK-7	瓦質土器	不明	(30.6)	6.55	(25.8)	—	—	—	—	不明	不明	スス付着(内面)
93	SK-7	磁器	皿	—	3.6以上	—	白磁	—	—	—	—		
94	SK-7	磁器	仏飯器	—	3.7以上	(3.6)	透明	—	—	—	肥前	18C後半～ 19C中頃	
95	SK-7	陶器	蓋	(6.7)	2.3以上	—	透明	—	イッチン 掛け	—	関西	18C後半	
96	SK-7	陶器	急須の口	—	7.2以上	—	鉄釉	—	—	—	—		
97	SK-7	磁器	筒型碗	—	7.1以上	—	色絵 染付、透明	外:楓？菊花？	—	—	—		
98	SK-11	瓦質土器	鉢？	—	6.1以上	—	—	—	—	—	—	18C？	スス付着(一部外面)
99	SK-11	瓦質土器	鉢？	—	4.5以上	—	—	—	—	—	—	18C？	
100	SK-11	瓦質土器	火鉢	—	6.7以上	—	—	—	—	—	—		
103	SK-11	陶器	碗	—	2.4以上	4.7	白泥？	—	—	—	—		
104	SK-11	磁器	碗	—	4.8以上	—	染付 透明	内: 外:風景	—	—	—		
105	SK-11	瓦質土器	茶釜？	—	8.5以上	—	—	—	—	—	—		
107	SK-13	陶器	行平鍋？	—	4.0以上	—	透明	—	—	—	—		スス付着(一部外面)
108	SK-14	陶器	碗	(8.1)	5.0以上	—	鉄釉	—	—	—	—		
109	SK-14	磁器	碗	(9.9)	5.0	4.4	染付 透明	外:秋草	—	大明 崩れ	肥前	1690～ 1740年代	
110	SK-14	陶器	壺？	(7.0)	5.35以上	—	鉄釉	—	—	—	—		
111	SK-14	磁器	蓋	(8.2)	2.1以上	—	染付 透明	外:松樹	—	—	肥前	1660～ 1680年代	
113	SK-15	陶器	碗	(9.4)	6.7	(4.2)	白泥 透明	内: 外:刷毛目	—	—	肥前	17C後半～ 18C前半	
114	SK-15	陶器	碗	(9.0)	5.75	3.4	色絵 透明	外:笹	—	—	関西	18C後半	
115	SK-15	陶器	碗	(9.6)	4.9	(3.8)	染付 透明	外:植物？	—	—	肥前	17C後半～ 18C？	
116	SK-15	陶器	碗	—	1.8以上	4.4	染付 透明	外:植物？	—	—	肥前	17C後半～ 18C？	
117	SK-15	磁器	碗	—	3.2以上	(3.1)	白泥 透明	—	—	—	肥前	18C後半？	
118	SK-15	磁器	碗	—	2.2以上	3.8	染付 透明	外:	—	大明 崩れ	肥前	18C後半？	
119	SK-15	磁器	碗	(15.1)	4.7以上	—	青磁	—	—	—	肥前	1820～ 1860年代	
120	SK-15	陶器	鉢？	—	2.2以上	(4.9)	染付 透明	内:草花？	—	—	—		砂目有(見込み) 蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
121	SK-15	磁器	碗？鉢？	—	1.8以上	4.6	染付 透明	内:唐草？	—	—	—	18C？	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
122	SK-15	磁器	皿	—	4.2以上	(8.0)	染付 透明	内:花虫(芙蓉手)？ 外:連続唐草	—	渦福 五弁花	肥前	1680～ 1700年代	
123	SK-15	瓦質土器	火鉢	—	6.3以上	—	—	—	—	—	—		圧痕？有(外面)
125	SK-15	陶器	甕	—	4.1以上	—	鉄釉	—	—	—	肥前？	17C後半～ 18C前半？	
126	SK-15	陶器	擂鉢	—	6.1以上	—	鉄釉	—	—	—	堺？	18C前半～ 中頃？	
127	SK-15	陶器	擂鉢	—	7.0以上	—	鉄釉	—	—	—	肥前？	18C？	
128	SK-15	陶器	瓶	—	6.6以上	—	白泥 透明	外:刷毛目	—	—	肥前	18C後半	
129	SK-15	陶器	瓶	—	9.8以上	—	鉄釉	—	—	—	九州	18C後半	
130	SK-15	磁器	壺？	—	1.7以上	11.6	透明	—	—	—	—		
131	SE-2 下層	磁器	碗	(9.3)	5.45	(4.4)	染付 透明	外:海浜風景？	—	渦福？	肥前	18C後半	
132	SE-2 下層	磁器	碗	(9.6)	7.45	(5.0)	染付 透明	外:唐草	—	—	肥前	18C前半～ 中頃	
133	SE-2 下層	磁器	碗	10.2	5.6	4.1	染付 透明	外:梅樹、雪輪	—	—	肥前	18C後半	
134	SE-2 下層	磁器	碗	(7.5)	3.9	(2.5)	染付 透明	外:氷裂地文に 菊花散らし	—	—	肥前	18C後半	

石堂池遺跡陶磁器、瓦質土器観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)			装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
				口径	器高	底径	絵付釉薬	文様	特徴				
135	SE-2 上層	磁器	碗	—	4.8以上	(4.3)	染付 透明	外:梅樹?	—	—	—		
136	SE-2	磁器	碗	(7.0)	3.9	(4.5)	色絵 透明	外:笹	—	—	関西	18C後半	
137	SE-2 下層	陶胎?	碗	10.6	7.5	4.8	染付 透明	外:風景	—	—	肥前	18C末～19C前半	
138	SE-2 上層	磁器	碗	(9.2)	5.05	3.7	染付 透明	外:植物?	—	—			
139	SE-2 上層	陶器	碗	—	5.1以上	(4.4)	白泥 透明	外:刷毛目	—	—	肥前	17C後半～18C前半	
140	SE-2 上層	磁器	碗	—	2.6以上	(4.1)	透明	—	—	—	—		
141	SE-2 下層	磁器	碗	—	6.1以上	—	透明	—	—	—	—		
142	SE-2 下層	磁器	碗	—	1.8以上	4.4	透明	—	—	—	—		蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
143	SE-2 上層	磁器	碗	—	1.9以上	4.1	染付 透明	外:植物?	—	—	肥前?	18C?	蛇ノ目釉はぎ有(見込み)
144	SE-2 上層	磁器	紅皿	6.5	2.8	2.6	染付 透明	外:笹	—	—	肥前	18C後半	
145	SE-2 下層	陶器	甕?	(33.1)	10.6以上	—	鉄釉	口縁部:刷毛目	—	—	—		
146	SE-2 上層	磁器	皿?	—	5.4以上	(9.2)	染付 透明	内:笹 外:	—	—	—		蛇ノ目高台
147	SE-2 上層	陶器	鉢	—	3.9以上	(8.0)	白泥 透明	内:	—	—	—		白化粧による文様(内面) 蛇ノ目釉はぎ(見込み)
148	SE-2 下層	瓦質土器		—	2.0以上	—	—	—	—	—	—		
150	SE-2 下層	陶器	蓋	9.9	1.6以上	5.0	白泥 透明	—	—	糸切り	関西?	18C後半?	
151	SE-2 下層	陶器	灯明皿(灯火具)	9.1	1.85	4.3	—	—	—	糸切り	肥前	17C中頃～後半	
155	SE-2 下層	陶器	火容?	13.2	7.5	13.7	鉄釉	—	—	—	備前or丹波	18C	
156	SE-2 上層	陶器	鉢	(22.0)	12.1	(10.0)	白泥 鉄釉	—	—	—	肥前	17C後半～18C前半	
160	SE-2 上層	陶器	擂鉢	(40.0)	11.6以上		鉄釉	—	—	—	堺	18C前半～中頃	
161	集石1	磁器	小坏	(6.1)	2.75	(4.7)	染付 透明	内:草花、雨降り柳	—	—	肥前	1690～1740年代	
162	集石1	磁器	碗	—	4.0以上	(6.0)	染付 透明	外:花唐草?	—	花	肥前	18C後半～19C中頃	広東碗?
163	集石1	陶器	碗	6.3	5.2	3.4	透明	—	—	—	肥前	1820～1860年代	
164	集石1	磁器	仏飯器	—	3.1以上	4.0	白磁	—	—	—	肥前	18C後半～19C中頃	
165	集石1	磁器	皿(寿文皿)	9.6	2.0	5.5	白磁	—	—	寿(刻印)	瀬戸美濃	19C中～	型打有(見込み)
166	集石1	陶器	蓋	—	2.1以上	(4.2)	鉄釉	—	—	—	唐津系	17C?	
169	集石1	瓦質土器	火鉢?	—	4.7以上	(24.6)	—	—	—	—	—		穿孔1つ有
171	表採	磁器	碗	—	1.9以上	(4.6)	染付 透明	外:牡丹唐草	—	桜花散らし川?、渦福	肥前	1690～1740年代	
172	表採	磁器	皿	—	1.4以上	(5.6)	染付 透明	内:捻り花?	—	—	肥前	1690～1740年代	畳付に砂目有
173	表採	磁器	仏飯器	—	5.0以上	3.4	染付 透明	外:竹笹、「○前」	—	—	肥前	18C後半	
174	表採	磁器	仏飯器	—	3.7以上	4.0	染付 透明	外:源氏香、丸?	—	—	肥前	18C後半	
175	表採	瓦質土器	擂鉢	(35.2)	6.5以上	—	—	—	—	—	肥前?		
176	表採	瓦質土器	蓋?	(10.8)	2.0	(11.2)	—	—	—	—	九州?	18C後半?	
180	pit2	磁器	碗	—	4.3以上	—	染付 透明	外:若松	—	—	肥前	1690～1740年代	
181	pit4	磁器	皿	—	1.9以上	—	染付 透明	内: 外:草花	—	—	—		
182	pit4	磁器	皿?	—	3.0以上	—	青磁	内:花卉?	—	—	—		型打?有(内面)
184	pit10	瓦質土器	鉢	—	6.8以上	—	—	—	—	—	—		
185	pit16	瓦質土器	鉢	—	4.5以上	—	—	—	—	—	—		
186	pit16	瓦質土器	鉢	—	7.9以上	—	—	—	—	—	肥前?	18C前半?	
187	pit22	陶器	碗	(13.3)	3.9以上	—	不明	—	—	—	—		
188	pit22	陶器	甕?	—	8.8以上	—	鉄釉	外:波状文	—	—	—		
189	pit24	瓦質土器	壺?	—	4.9以上	—	—	—	—	—	—		

石堂池遺跡土器観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調	調整	備考
6	SD-2	須恵器	壺	—	7.1以上	—	内:黄灰色 外:黄灰色	内:回転ヨコナデ 外:回転ヨコナデ	波状文有(一部外面)
7	SH-1	須恵器	坏	12.3	4.7	8.1	内:灰褐色 外:暗灰褐色	回転ヨコナデ	
8	SH-1	土師質土器	甕	—	—	—	橙褐色	不明	口縁部に5ミリほどのレキ
9	SH-1	土師質土器	皿	15.7	2.1	13.4	橙褐色	内:回転ヨコナデ、ナデ 外:ナデ、口縁部回転ヨコナデ	
10	SH-1	土師質土器	甕	19.2	10.4	4.2	内:淡褐色 外:橙褐色	内:指削り 外:指削り、ハケ目	スス付着(底部)
11	SH-1	土師質土器	甕	—	—	4.8	暗褐色	内:削り 外:指押さえ	胎土に黒曜石
14	SK-2	土師質土器	皿	(11.7)	1.8以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ	
15	SK-2	土師質土器	火鉢?	—	8.5以上	—	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色	内:ナデ 外:ナデ	スス付着(内面)
16	SK-2	土師質土器		—	5.0以上	—	内:橙色 外:にぶい黄褐色	内:ナデ 外:ナデ	
17	SK-2	土師質土器		—	4.1以上	—	内:褐灰色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ 外:ナデ、文様	雷文有(一部外面)
18	SK-2	土師質土器		—	5.5以上	—	内:橙色 外:橙色	内:ナデ、ヨコナデ 外:ヨコナデ、ヘラナデ	
19	SK-2	土師質土器	鉢?	(22.3)	5.2以上	—	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色	内:ナデ、ミガキ 外:ナデ	
20	SK-2	土師質土器	小皿	—	0.7以上	(7.2)	内:橙色 外:橙色	内:ナデ 外:ナデ	糸切り有(底部)
21	SK-2	土師質土器	小皿	(8.3)	1.1	(7.4)	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、ヨコナデ 外:ヨコナデ	糸切り有(底部)
24	SK-5	土師質土器	鉢?	—	4.4以上	—	内:にぶい赤褐色 外:にぶい褐色	内:ナデ、ミガキ、回転ナデ 外:回転ナデ	
25	SK-5	土師質土器	鉢?	(25.3)	5.1以上	—	内:にぶい赤褐色 外:灰褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	
30	SD-1 下層	土師質土器	坏? 皿?	—	2.0以上	—	内:灰白色、灰色 外:灰白色、灰色	内:ナデ 外:ナデ	
31	SD-1	須恵器	鉢?	—	4.0以上	—	内:浅黄色、黄灰色、灰白色 外:灰黄色、灰白色	内:ナデ、ヨコナデ 外:ナデ、ヨコナデ	
32	SD-1	土師質土器		—	4.0以上	—	内:灰黄色 外:黄灰色	内:ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ、ヘラケズリ	
35	SD-1	須恵器	甕	—	4.3以上	—	内:褐灰色 外:褐灰色	内:ナデ 外:灰かぶり	
36	SD-1	須恵器	壺	(18.4)	3.7以上	—	内:黄灰色 外:黄灰色	内:回転ヨコナデ 外:回転ヨコナデ	波状文有(一部外面)
37	SD-1 2トレ	土師質土器	鉢	(26.0)	8.2以上	—	内:にぶい橙色 外:にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ	全体にスス付着(外面)
45	SD-3 下層	土師質土器	甕?	—	6.7以上	—	内:浅黄橙色 外:浅黄橙色	内:ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ	
46	SD-3 下層	土師質土器	焜炉	—	2.9以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	穿孔有
47	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	3.8以上	—	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色	内:ナデ、ミガキ 外:ナデ	
48	SD-3 上層	土師質土器	鉢?	—	4.9以上	—	内:にぶい黄橙色 外:橙色、褐灰色	内:ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ	
49	SD-3 下層	土師質土器	鉢	—	4.2以上	—	内:にぶい黄橙色 外:灰褐色	内:ナデ、ヨコナデ 外:ヘラナデ、ヨコナデ	
55	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	1.5以上	—	内:橙色 外:橙色	内:ナデ、ミガキ 外:ナデ	
88	SK-6	土師質土器	鉢	—	6.05以上	(19.4)	内:橙色 外:橙色、明黄褐色	内:ナデ、ミガキ 外:ヨコナデ、突帯、回転ヘラケズリ	
92	SK-7	土師質土器	火鉢	(18.4)	8.9	(13.8)	内:にぶい橙色、黒褐色 外:にぶい橙色、黒褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ	
101	SK-8 SK-25	土師質土器	大甕	(68.4)	21.6以上	—	内:明赤褐色、浅黄橙色 にぶい橙色、にぶい黄橙色 外:明赤褐色、浅黄橙色	内:ナデ、ハケ目、あて具痕 外:ナデ、指押さえ	
102	SK-11	土師質土器	鉢?	—	6.3以上	—	内:褐灰色 外:褐灰色	内:ナデ 外:ナデ	
106	SK-13	土師質土器	壺? 甕?	—	5.1以上	17.6	内:にぶい橙色 外:橙色	内:ナデ 外:ナデ、指押さえ	
112	SK-14	土師質土器	大甕	—	33.6以上	18.1	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、タタキ、ハケ目 外:ナデ、指押さえ、板状圧痕	
124	SK-15	土師質土器	鉢?	—	7.0以上	—	内:にぶい黄橙色、橙色 外:にぶい黄橙色、橙色	内:ミガキ 外:ヨコナデ、ヘラナデ	
149	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	—	5.3以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ、ミガキ、ヘラケズリ	
152	SE-2 下層	土師質土器	小皿	8.7	1.7	6.6	内:黒褐色 外:黒褐色	内:ナデ 外:ナデ	糸切り有(底部)
153	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	(29.8)	5.2以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ、ヘラケズリ	
154	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	(22.2)	5.4以上	—	内:にぶい黄橙色 外:黒色	内:ナデ、ヨコナデ、指押さえ 外:ヨコナデ、ヘラケズリ	スス付着(外面)
157	SE-2 下層	土師質土器		—	6.4以上	15.6	内:黄灰色 外:浅黄色	内:ナデ、指押さえ、工具痕 外:ナデ、指押さえ、ミガキ	
158	SE-2 下層	土師質土器	甕	(37.9)	8.8以上	—	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色	内:ナデ、ハケ目、指押さえ 外:ナデ、沈線	
159	SE-2 下層	土師質土器	大甕	(69.0)	15.4以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、ハケ目、あて具痕 外:ナデ、沈線	
167	集石1	土師質土器?		—	4.0以上	—	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色	内:工具痕 外:ナデ	
168	集石1	土師質土器	小皿	(10.1)	1.85	(8.4)	内:にぶい橙色 外:橙色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	
177	表採	土師質土器	鉢?	—	5.4以上	—	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、ヨコナデ 外:ヨコナデ、ミガキ	
178	表採	土師質土器	鉢	(30.5)	8.3以上	—	内:橙色 外:橙色	内:ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ、ヘラケズリ	朱塗り有(一部内面)
179	表採	土師質土器		—	7.8以上	—	内:橙色 外:橙色	内:ナデ 外:文様	文様有(流雲、竜)
183	pit5	土師質土器	鉢	—	5.3以上	(16.0)	内:淡黄色、橙色 外:にぶい黄橙色	内:ナデ、ハケ目 外:ナデ、ハケ目、指押さえ	
190	pit24	土師質土器	鉢	(23.9)	7.7以上	—	内:にぶい黄橙色、褐灰色 外:灰黄褐色、黒褐色	内:ナデ 外:ナデ、ヨコナデ、ヘラケズリ	スス付着(外面)

石堂池遺跡土製品・土人形観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)			文様	年代	備考
				口径	器高	底径			
64	SD−3下層		土製品	—	4.55	—	—		無釉
170	集石1		土人形	—	6.1以上	—	—		無釉

石堂池遺跡石器観察表

No.	出土遺構	器種	法量(cm)				石材	備考
			縦長	横長	厚さ	重量(g)		
12	SH-1 P-14	砥石	4.3	3.45	3.4	53.9		

石堂池遺跡墓石観察表

No.	出土遺構	器種	宝珠寸法(cm)		笠寸法(cm)			頂部寸法(cm)		台座寸法(cm)			碑身寸法(cm)		石材	備考
			高さ	幅	幅	奥行き	高さ	幅	高さ	幅	奥行き	高さ	高さ	幅		
191	集石1	石塔	—	—	—	—	—	—	—	36.9	38.5	15.9	—	—	安山岩	
192	集石1	五輪塔	19.8以上	13.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩	
193	集石2	角塔婆？	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19.4以上	15.8	安山岩	
194	集石2	五輪塔	—	—	31.5	28.6	15.5	—	—	—	—	—	—	—	安山岩	
195	集石2	五輪塔	23.5以上	17.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩	
196	集石2	板碑	—	—	—	—	—	24.7	27.5	—	—	—	—	—	安山岩	

石堂池遺跡銅銭観察表

No.	出土遺構	器種	法量(cm)	製作地	製作年代	備考
23	SK-2	銅銭	—	—	17C後半～18C(1668年以降)	新寛永通宝

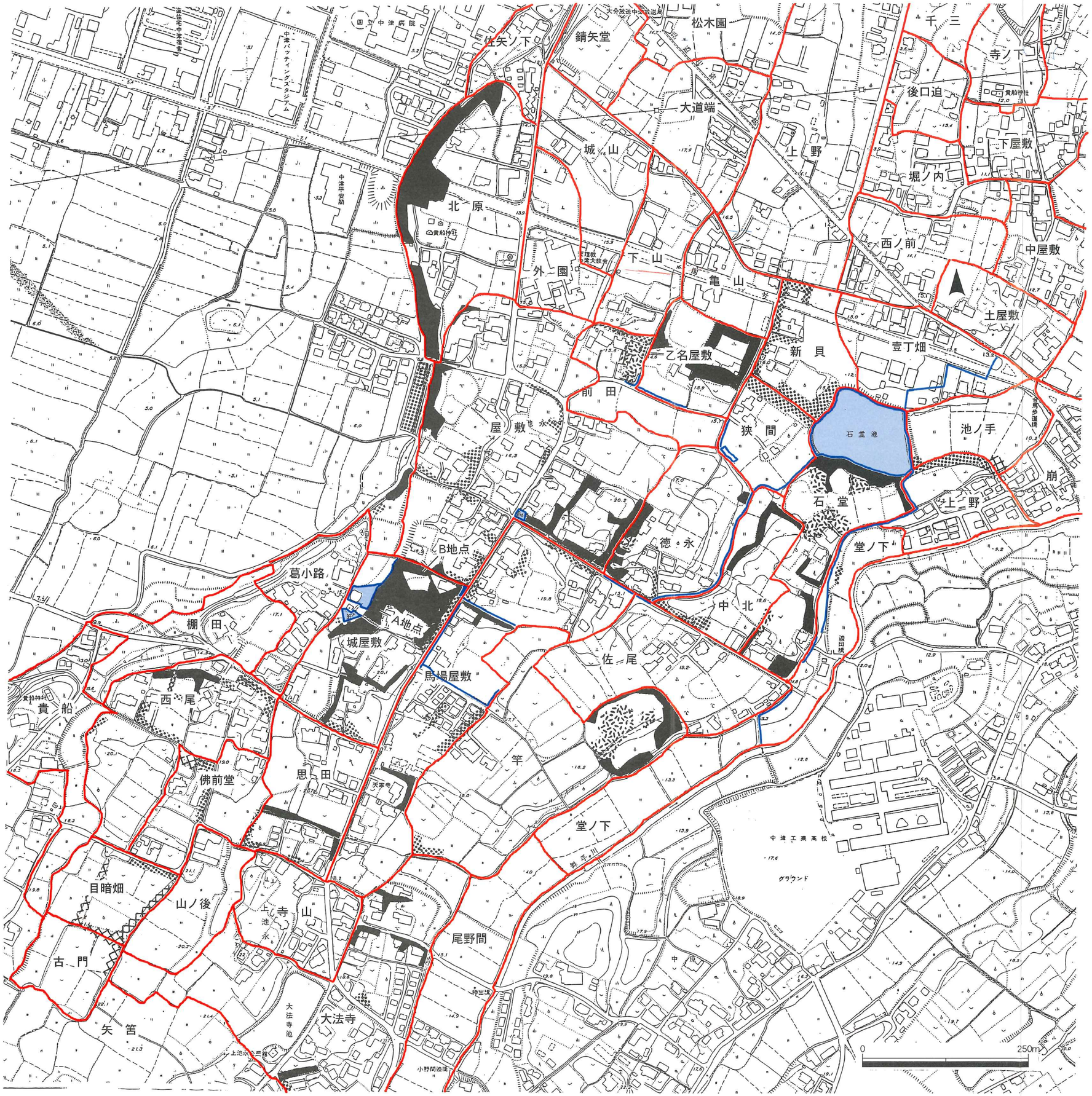
第4章　小　結

今回の発掘調査の結果、石堂池遺跡は古代～近世に至る複合遺跡であることが明らかになった。古代の遺構は、竪穴住居、ピット、土壙であった。2区で検出された竪穴住居の東側は西側に比べ30cm程レベルが低い。後世に削られたものと推測される。石堂池遺跡周辺で調査が行われた古代遺跡は原遺跡が周知される。原遺跡は7世紀前半の竪穴住居、掘立柱建物、溝、土壙が検出されている。石堂池遺跡の竪穴住居は8世紀前半のものと考えられ時期差が生じる。石堂池遺跡と原遺跡の中間に上如水遺跡が立地する。上如水遺跡は発掘調査が行われていないが、古代の遺物包蔵地として周知される。石堂池遺跡と上如水遺跡との間に谷状の地形があり古代の遺跡は台地上に形成されたものと考えられる。

中世の遺構は二重の壕に囲まれ土塁を有する居館が注目された。壕は2基とも幅、深さ、形状が類似し中世～近世の遺物が検出された。壕が形成された時期は16世紀後半になるものと思われる。また下層から19世紀代の遺物が検出され、この時代まで開いていたと考えられる。土塁はセットとしてとらえられこの時代から今日まで残ったものである。今回の調査を行った後、石堂池遺跡周辺が中世の景観を残すことが明らかになった。34図は石堂池遺跡周辺の地目を色分けし表したものである。地目は明治21年の字図をもとにしたものである。色の濃い部分は明治の地目で山地、藪と表記され、現在もその地形を残すものである。また水玉の部分は明治の地目で山地、藪と表記されていたが現在その地形が残らないものである。まず今回の調査区で、色の濃い部分は明治の地目で山地と表記されていた。調査時に平板測量した土塁と明治21年の地目が重なることが明らかになった。ゴマ粒状に表記したのは宅地跡である。土塁の内側で検出された掘立柱建物、土壙などの位置とも重なる。石堂池周辺でも土塁が方形に区画をなし宅地を囲む地点が確認できる。また図の赤線は小字の界を表記したものである。乙女屋敷、屋敷、城屋敷、馬場屋敷など小字からも居館の存在が推測される。2001年に報告された「長者屋敷遺跡」（中津市教育委員会）のなかで八ツ並城周辺の地目が表記されている。ここで八ツ並城周辺と石堂池遺跡周辺の共通点を挙げてみる。

＊ 台地の西側は落ち台地との比高差が生じる。
＊ 字界いと土塁の位置が重なる。
＊ 集落への入り口の道が一度、鍵の手状に曲げられる。
＊ 屋敷の方形区画の高まりが階段状に連続する。

以上のことから石堂池遺跡周辺で中世城館の存在が推測される。写真2と写真3は字名の城屋敷の一部を撮影したものである。写真2（A地点）は現在、若宮神社の敷地裏側にあたる部分である。この地点は雑木が生い茂る。写真では明確に見ることができないが溝状の掘り込みが確認された。溝は幅約3ｍほどである。写真3（B地点）は土塁と思われるものを撮影したものである。高さは約2.5mほどである。今回、明治の地目を現在の地図に写しこみ確認調査を行ったものの中で一番規模の大きなものの一群である。中津市教育委員会ではこの周辺を池永城跡として周知している。「下毛郡誌」に池永城主、池永左馬頭重則は天正16年3月10日池永一族、大貞神社神官、社僧な



明治の山地、藪、現在も同じ

明治の山地、藪、現在異る

明治の宅地

明治の水田、現在窪地（水田）

34図　石堂池遺跡周辺地目図

どを加え850余名、黒田軍勢３千余名を相手に戦った。しかし多勢に叶わず重則は一族30人余りと城に火を放ち自害したと記される。

「長者屋敷遺跡」の報告で八ツ並城跡を周辺の集落とまとめてとらえている。池永城跡も城屋敷を中心とし周辺の土塁や壕を有する方形区画は、セットとし考えられるものであろう。石堂池遺跡はこの集落の一部に位置づけられるものであろう。石堂池遺跡は中世以降、江戸中期～明治末期まで、北原人形芝居や歌舞伎役者の人たちの屋敷として使用され、近世の遺構を残す。

今回、出土遺物の検討を行ってなくまとめとして不十分なものとなった。筆者の力不足であり今後に課題を残すものである。

写真２　Ａ地点

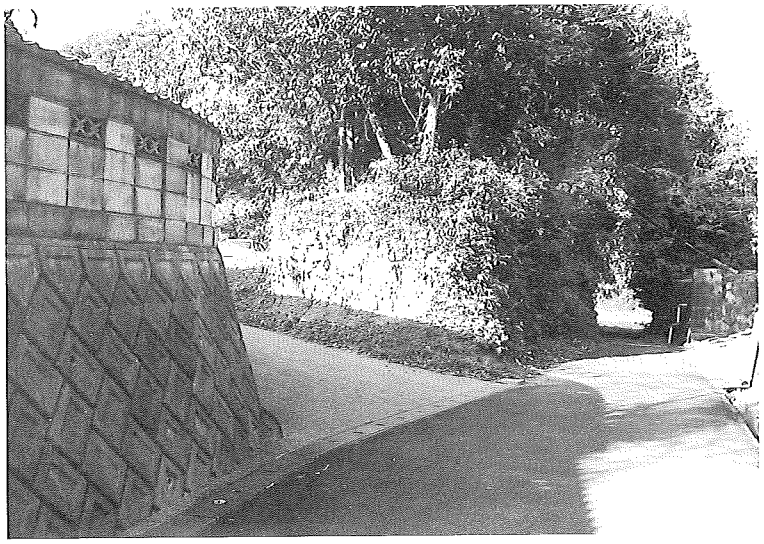


写真３　Ｂ地点

参 考 文 献

大分県教育委員会　「府内城三ノ丸遺跡」　大分県共同庁舎（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1993

私立三余女学校　「下毛郡史」　1912

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館　「弥勒寺」　1989

宇佐市教育委員会　「下林遺跡Ⅳ区」　一般国道10号宇佐道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1995

中津市教育委員会　「原遺跡」　中津市文化財報告書第14集　1993

中津市教育委員会　「棒垣遺跡ホヤ池窯跡」　中津市文化財報告書第15集　1994

中津市教育委員会　「犬丸川流域遺跡群」　中津市文化財報告書第19集　1997

中津市教育委員会　「大悟法地区条里跡、福島遺跡東入垣地区、長者屋敷遺跡」　中津市文化財報告書第25集　2001

中津市教育委員会　「長者屋敷遺跡」　中津市文化財報告書第26集　2001

写　真　図　版

図版 1

1 区発掘前風景

発掘風景

SH − 1

図版２

２区東側から

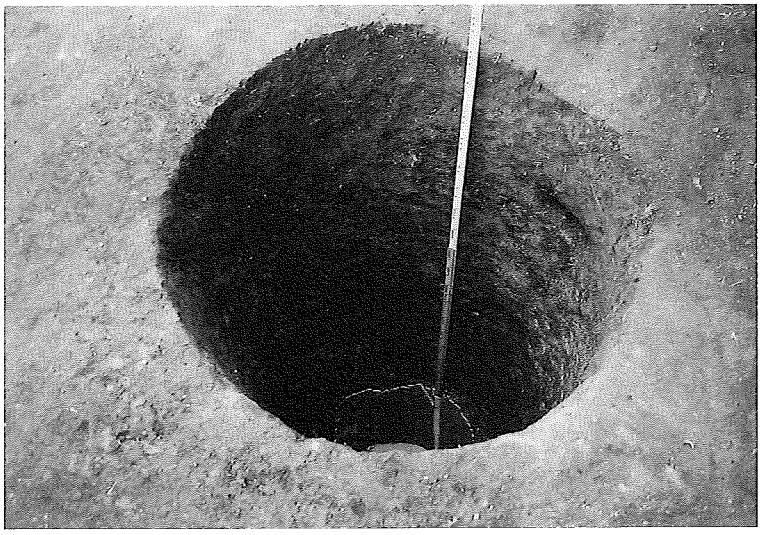
２区から３区を望む

SD － 1

図版３

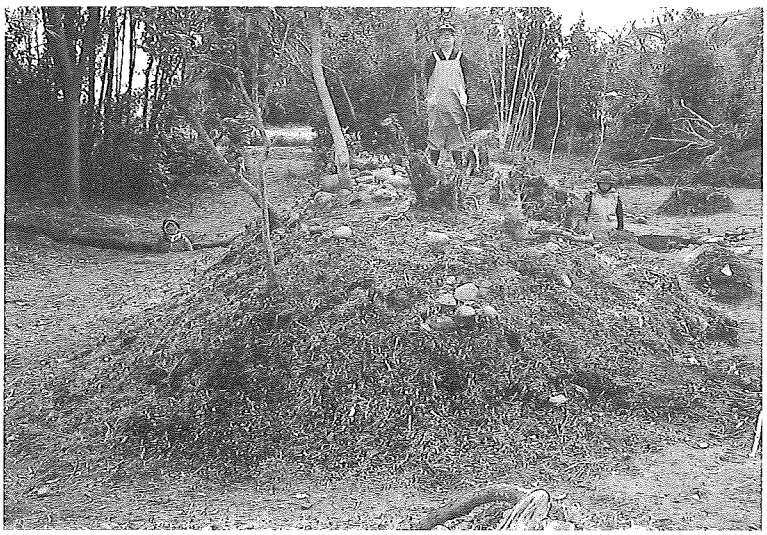
１区北側より

SD－３、SD－５、SD－６、SD－１



SE－５

図版４



土墨２

土墨２、SD－３

土墨２、SD－１

図版 5

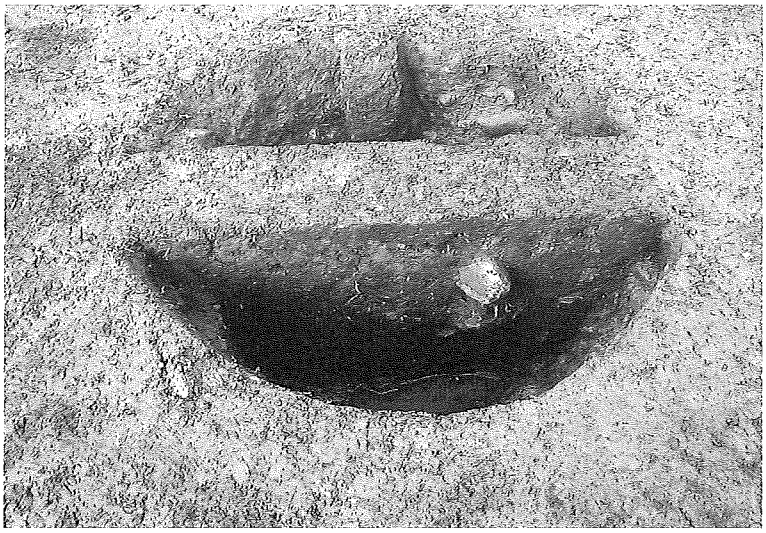
SK − 2

SK − 4

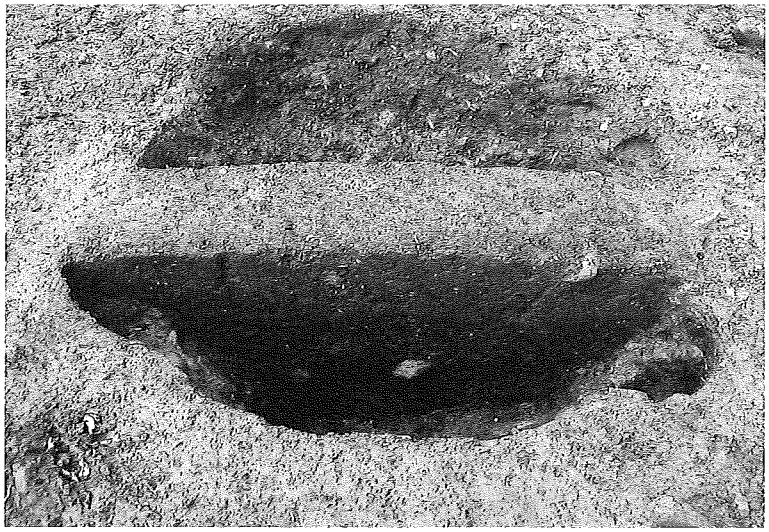
SK − 6

図版 6

SK − 7

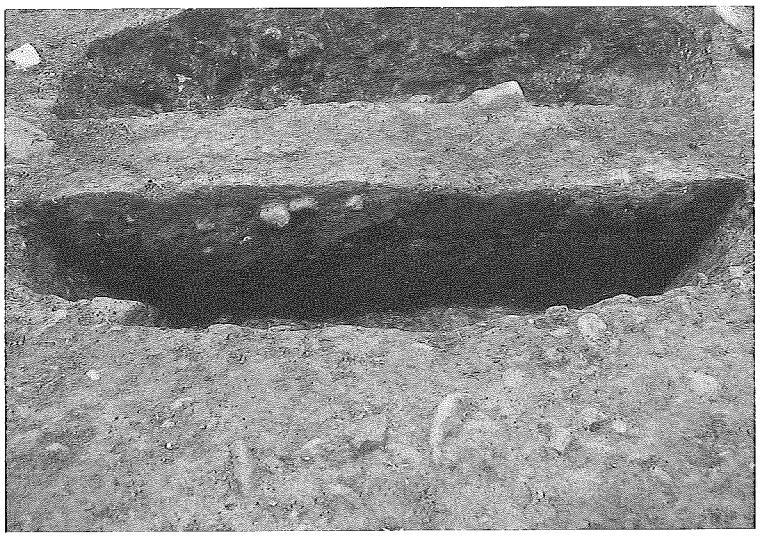


SK − 8



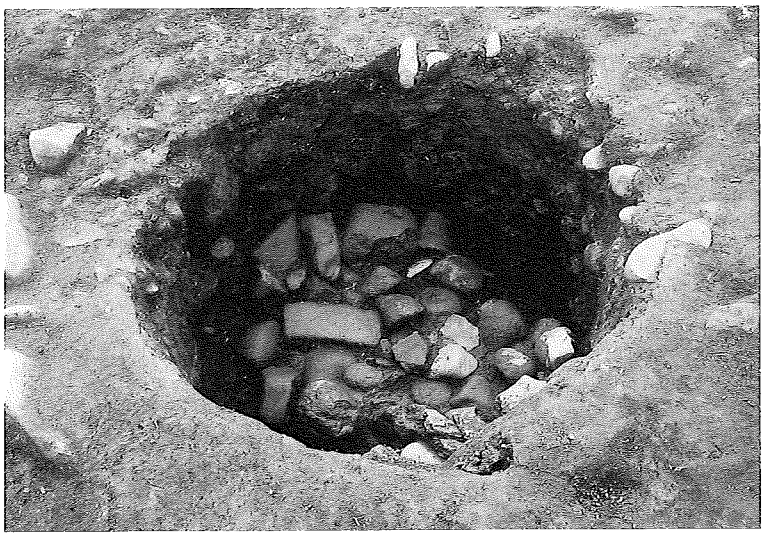
SK − 9

図版 7



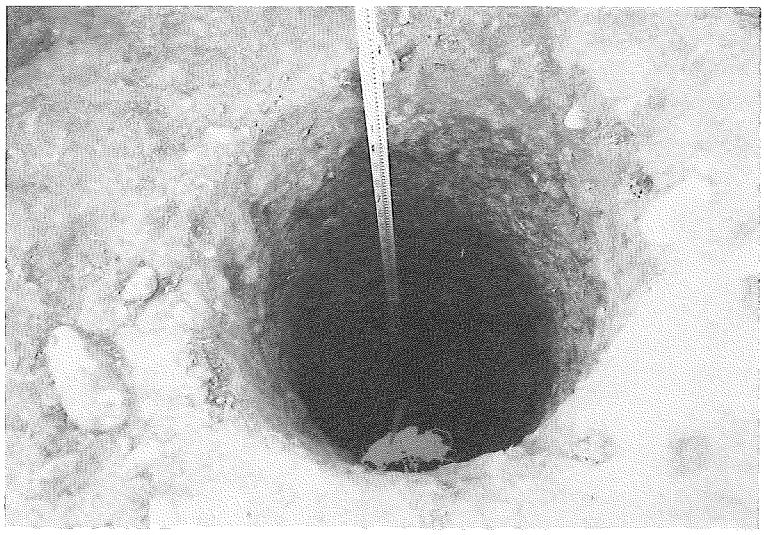
SK − 12

SK − 15、14、13、16



SE − 3

図版８

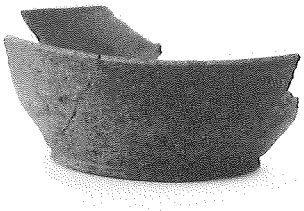


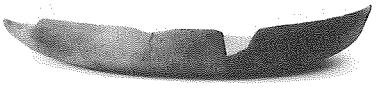
SE － 3

集石遺構１

集石遺構２

図版 9

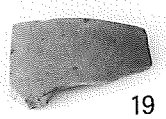

7

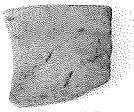

9

10

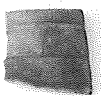
11

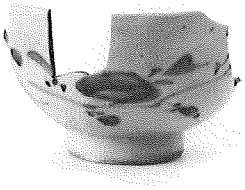
15


19


18

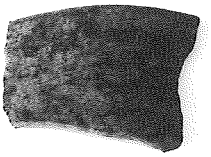
14

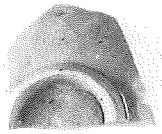

16


27

36

32

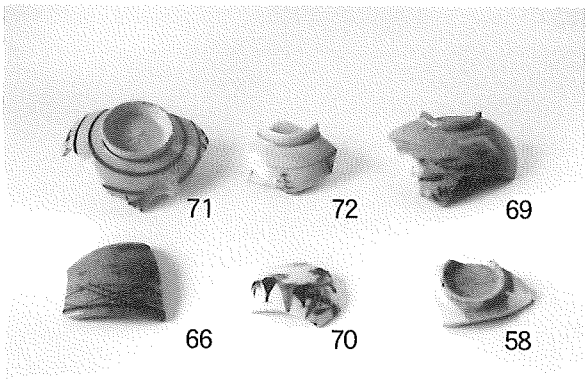

37

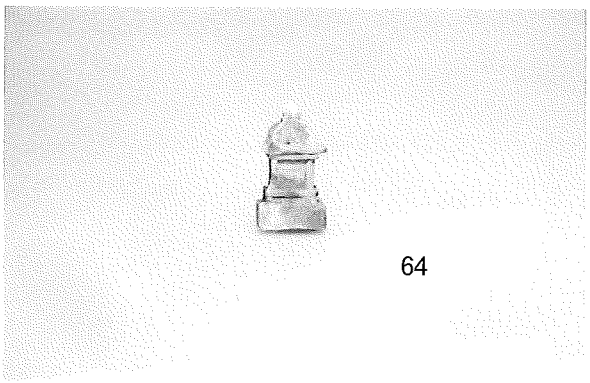

34

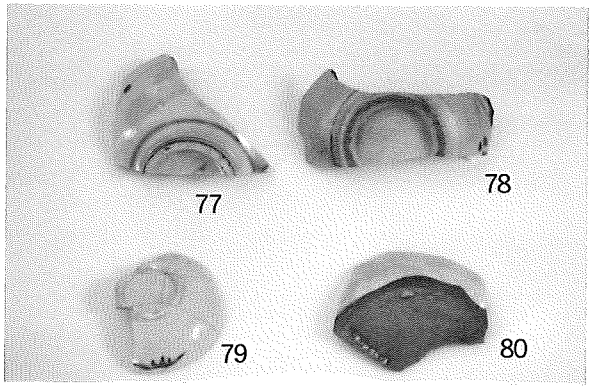
33

41

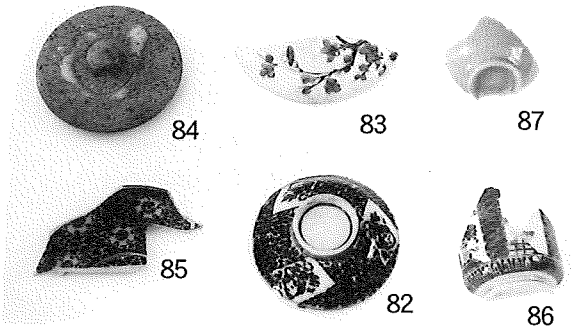
図版 10

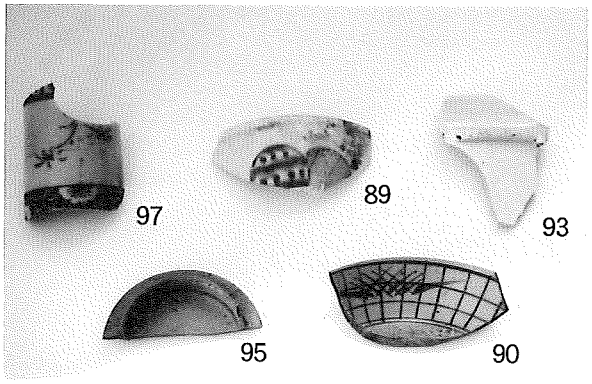

71
72
69
66
70
58

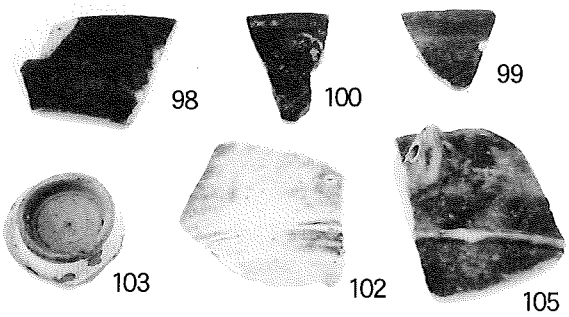

64

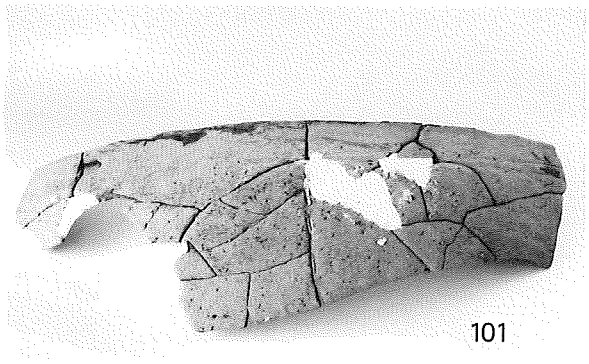

77
78
79
80

81


84
83
87
85
82
86

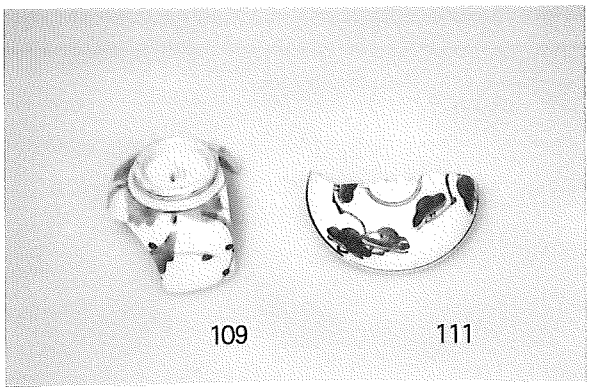

97
89
93
95
90

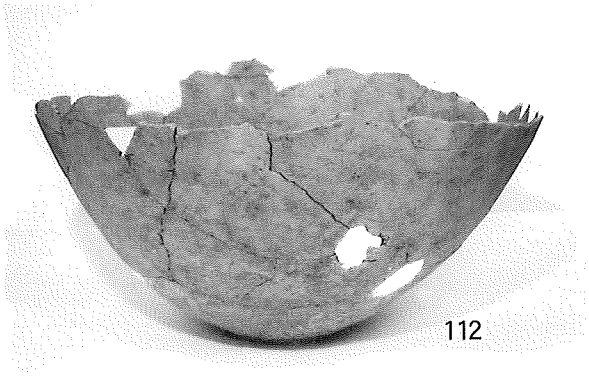

98
100
99
103
102
105

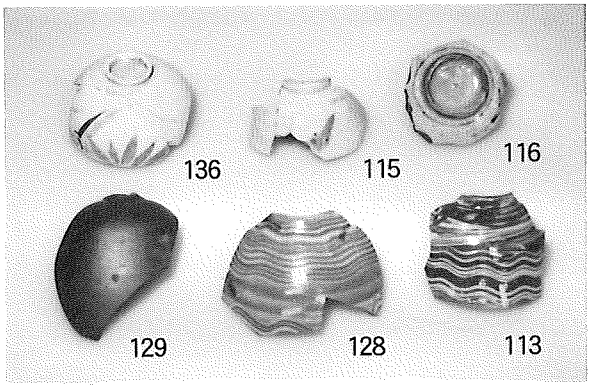

101

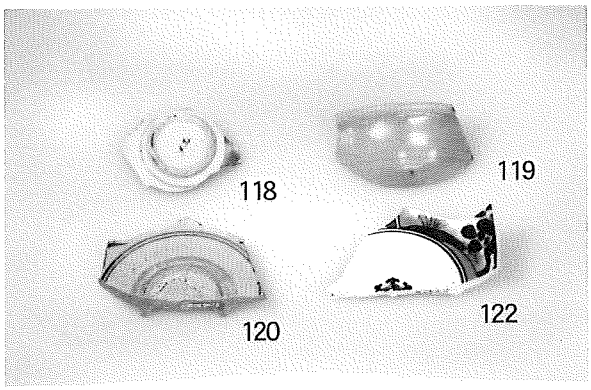
図版 11

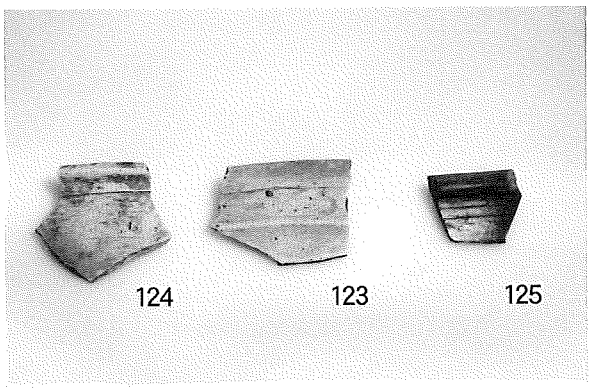
106


109
111


112


136
115
116
129
128
113

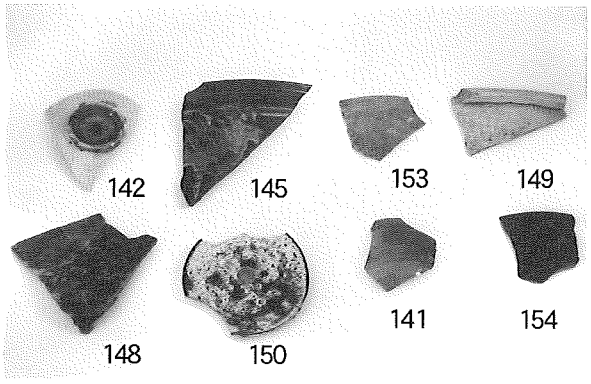

118
119
120
122

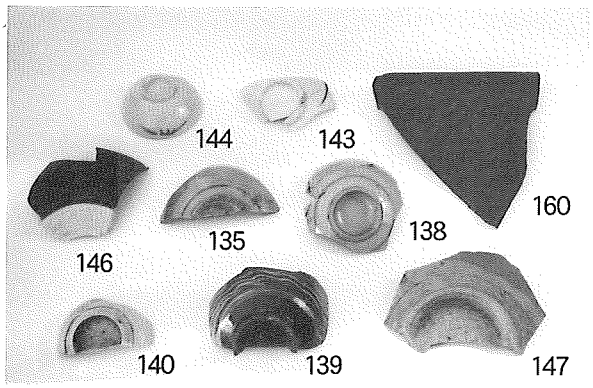

124
123
125

131

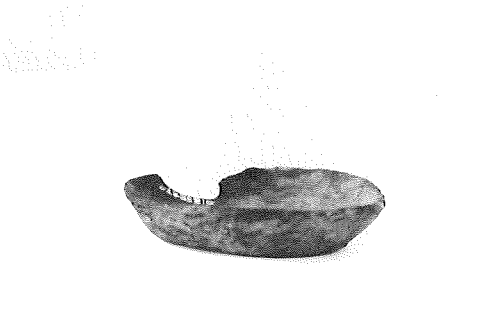
137

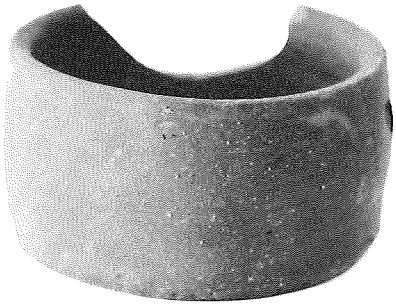
図版 12



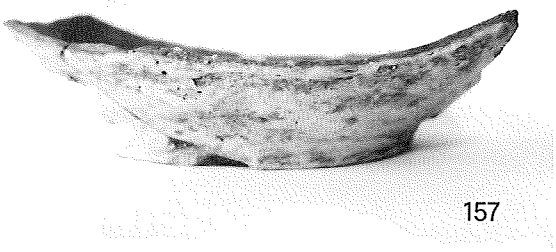


151


152

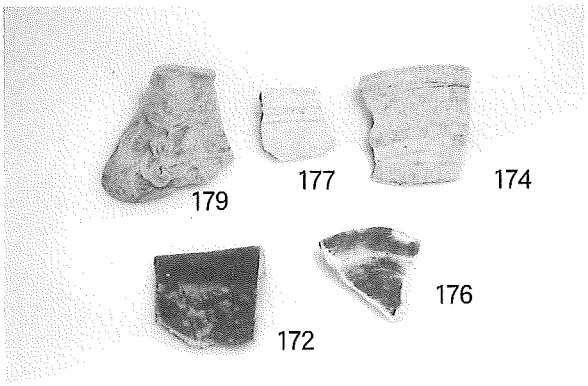

155

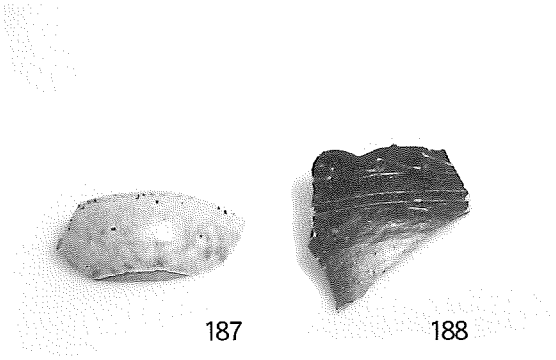
156

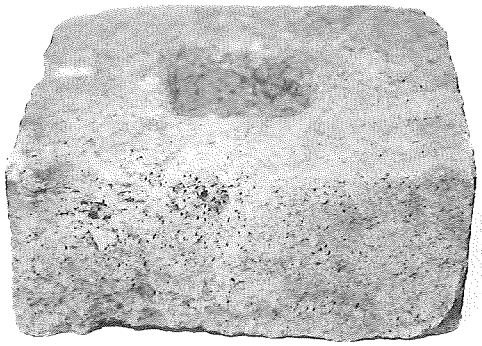

157

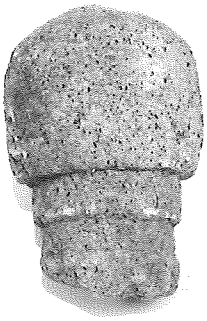
170

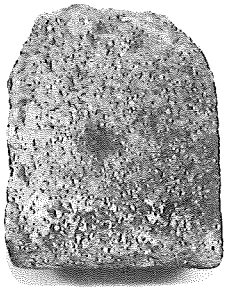
図版 13

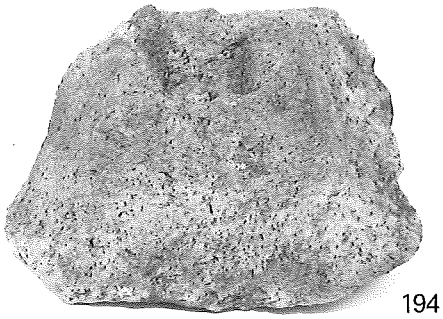


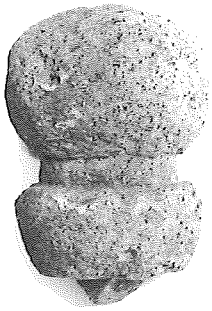


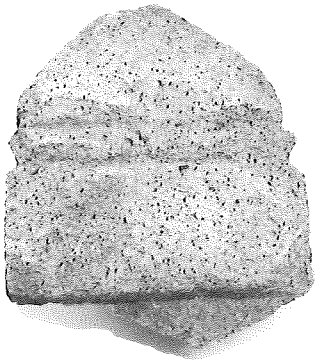












報告書抄録

ふりがな	いしどういけいせき
書名	石堂池遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第28集
編著者名	花崎　徹
編集機関	中津市教育委員会
所在地	大分県中津市豊田町14－3
発行年月日	2003年2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石堂池遺跡	大分県中津市 大字下池永942番地 他	44203	10119	33° 34′ 54″	131° 13′ 25″	001024～ 010219	3,200㎡	農業関連事業 溜池整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石堂池遺跡	居館	中世 近世	土塁、壕 地下式土壙	土師質土器 陶磁器 瓦質土器	二重の壕で区画される居館

石堂池遺跡

中津市文化財調査報告　第28集

2003年2月28日

発行　中津市教育委員会
印刷　第一印刷株式会社